

2021年5月1日



月刊

もぐら通信

2023年10月1日 第131号 初版

<http://abekobosplace.blogspot.jp>

あなたへ：
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

もぐら通信を自由にあなたの「友達」に配付して下さい



安部公房の広場 | | www.abekobosplace.blogspot.jp | 問合せ：takranke2003@yahoo.co.jp



『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する
非ユークリッド空間を映写する映写機

目次

- 1 目次…page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板page 3
- 3 巻頭詩（17）君がため…：光孝天皇…page 15
- 4 周辺飛行（42）：3。『周辺飛行』について（21）：周辺飛行39—公然の秘密：岩田英哉…page 16
- 5 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（12）：安部公房の塔と倉橋由美子の塔：待て次号：岩田英哉…page 21
- 6 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/
1.1 神武初代天皇の皇后（きさぎ）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉…page 23
- 7 ネット・メディア論（16）：また次号：岩田英哉…page 24
- 8 *Mole Hole Letter*（56）：フォークソング・国民の歌：キンタマを抜かれた男たち/恋の奴隷…
page 25
- 9 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（15）：5.16.4 八の音義は何を意味するか
（4）：G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある
皇統の長さ（90万年）は何を意味するか（2）/H 古代の天皇の寿命の長さは何を意味するのか/
I 国学の超越論：賀茂真淵と本居宣長の超越論：岩田英哉…page 28
- 10 Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境シリーズ（12）：扇：また次号：岩田英哉…
page 61
- 11 編集後記…page 62
- 12 編集方針…page 63

The Best Tweets of the Month



該当なし。



遮光@TRPG_PTSD・5月13日

安部公房、天才なのよ

[編集子] 当たり前過ぎることを文字にしても金賞にはなりません。

今月の不思議

ヤマニシ@bkkbook29・5月16日

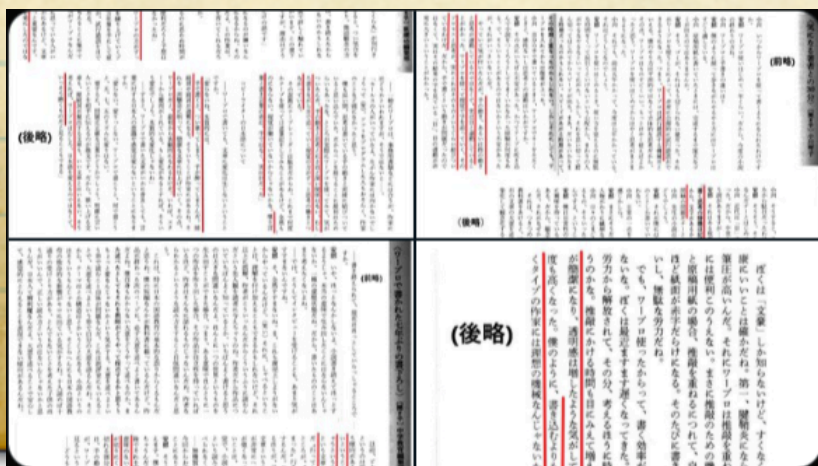
論文で三島由紀夫を三島と、夏目漱石を漱石と書いても違和感はないけど、安部公房だけ安部と書くと変な感じがするし公房と書くと馴れ馴れしすぎるからいつもフルネームで書いてしまう。

今月のワープロ原稿

わとそん@doctoruwatson・15時間

『安部公房全集』28-29巻から手書き文とワープロ文に関する発言を抜粋。

最終形態の同一性以上に、手の動きでなく視覚確認が文章を研ぎ澄ますという気付きから絵画などとの相違について洞察。作家の特質によっては、手描きを凌駕する優位性について語る。(RT先のしびれる言葉は抜粋4枚目の青線部分)



安部

関戸ゆいぎ「しびとのこい」WEB連載中 @Yuigi_sekido・23時間

返信先: @h_yuzukiさん

小説家の中でもいち早くワープロで書いていた安部工房が「肉筆の手書き原稿にこそ作家の魂が宿るのだ」と言われて「活字にしたら消し飛ぶような魂なら随分と軽いもんだな」と返したというエピソードが好きです。

yahoo.co.jp

怪しい隣人@BlackHandMaiden・20時間

安部公房のワープロ導入の話よりはアシモフが電子タイプライター導入して「便利ィ〜！」ってなった話のほうが印象的だったなあ 手書き→ワープロじゃなくてタイプ→電子タイプって日本人だと想像がつかない進化だ

ぜひぜひ第三次安倍政権で東京オリンピック開催を一。@Q47SM9・20時間

安部公房兄貴、『箱男』読んでいると、デジタルガジェットやネットワーカー側の人なのリアルに伝わって来るんよな。

引用ツイート

関戸ゆいぎ×「しびとのこい」WEB連載中@Yuigi_sekido・5月17日

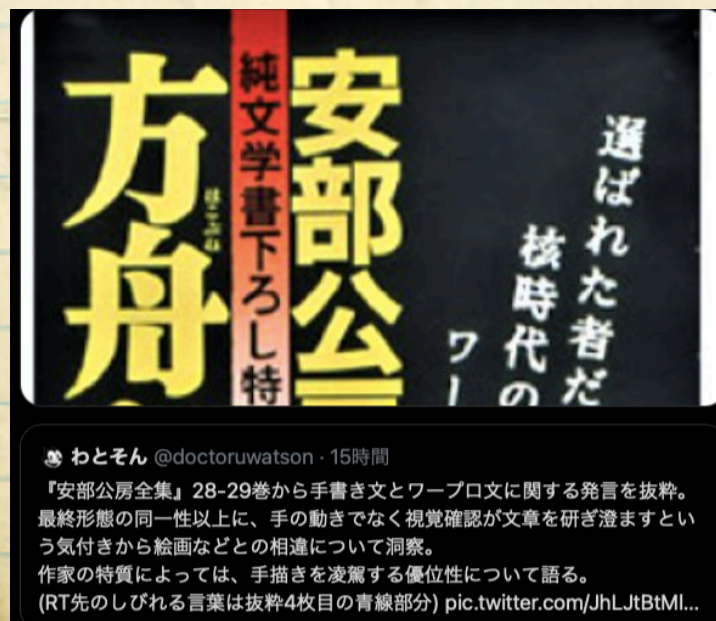
返信先: @h_yuzukiさん

小説家の中でもいち早くワープロで書いていた安部工房が「肉筆の手書き原稿にこそ作家の魂が宿るのだ」と言われて「活字にしたら消し飛ぶような魂なら随分と軽いもんだな」と返したというエピソードが好きです。

今月の方舟さくら丸

わとそん@doctoruwatson・15時間

安部公房作品で最初にワープロで書いて話題になった『方舟さくら丸』宣伝ポスター。しっかりと宣伝文句で「ワープロ作成」が強調された上、ワープロを使う作者の写真が使われている。



もぐら通信

弓月 光@h_yuzuki

このかたも八つ切りかあ。九裁って少数派？

あと編集さんの言葉だけど「楽するのは許せん」っていつまでもあるんですねえ。自分達もデジタルでページレイアウトできるようになったし、写植貼りから解放されてるのに。



巳己巳己(いこみき)@tres_cortesia-5月16日

安部公房の原稿送ってリアクションを見たいです。



今月の上演

CINRA.NET カルチャーメディア@CINRANET-5月12日

#KERAx#緒川たまきの #ケムリ研究室、#安部公房『砂の女』研究イベント詳細発表。#砂の女

<https://cinra.net/news/20210512-kemuri>



もぐら通信

猪口才さん@pole_wired・5月13日

KERAと緒川たまきの演劇ユニット「ケムリ研究室」が6月11日にイベント開催

ししまる@shishimaru1970・5月13日

ご夫婦で安部公房さんの代表作

『砂の女』を公演される素敵

ですね！

ホッタタカシ@t_hotta・5月13日

>6月11日に東京・LOFT9 Shibuyaで開催される同イベントでは、安部公房の小説

『砂の女』の一部を緒川がリーディングするほか、2人で同作に関するトークを行なう予定だ。

【KERA×緒川たまきのケムリ研究室、安部公房『砂の女』研究イベント詳細発表】

<https://cinra.net/news/20210512-kemuri...>

@CINRANET

<https://www.cinra.net/news/20210512-kemuri>

A.Hashimoto@Hashimoto2018・5月12日

ケラリーノ・サンドロヴィッチ氏の手による安部公房『砂の女』。夏の本編上演に先駆けて、興味津々です。

引用ツイート

キューブ舞台制作@cube_stage・5月12日

【ケムリ研究室no.2『砂の女』】

ケムリ研究室『砂の女』を研究する
～リーディング&トーク～

6/11(金)LOFT9 Shibuya 19:30～

会場チケット：前売3000円/当日

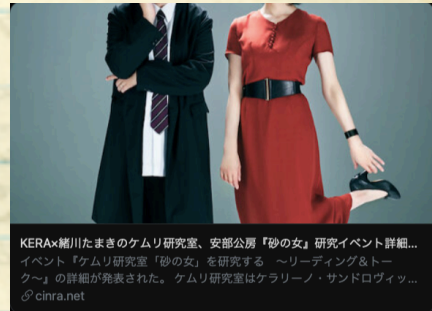
3500円 (+ドリンク代) 70席限定

出演：緒川たまき KERA

配信2000円(アーカイブ有)

チケット発売：5/15(土)～

詳細→<https://loft-prj.co.jp/schedule/loft9/173427>



もぐら通信

シアターテイメントNEWS (公式) @theatertainment-5月12日

#ケムリ研究室 『砂の女』を研究する～リーディング&トーク～ イベント詳細決定！ #安部公房 #ケラリーノ・サンドロヴィッチ #緒川たまき

<https://theatertainment.jp/japanese-play/79695/>

今月の詩人の生涯

はしぐち@hashiguchi1010-5月16日

『詩人の生涯』最初に観たのはいつだろう。大人になってからで、アニメーションでショックを受けた初めての作品だった。安部公房の言葉と川本先生の映像そして語り.....語り。

川本先生の作品の多くに感じるのだが、『逃げ場の無い美しさ』の圧がある。何度目かだが、また観られてよかった。

今月のアベコーボー

星野廉@juleszeau-5月16日

返信先: @bkbkbook29さん

分かります。どうしてなのでしょうね。

不思議でなりません。語呂とか語感とか字面でしょうか。

タレントやアーティストの名前でもそうですよね。小室、陽水、矢沢、秀樹、石橋、さんま.....。

ヤマニシ@bkbkbook29-5月16日

「安部公房」がひとつの単語になっているように感じられます。ロシアでもアベコボと呼ばれてたらしいので世界共通なのかもしれませんね。

今月のカンガルー・ノート

yukina@yukina8809-5月14日

カンガルーノート/

全ては膝の違和感から始まった。

「あの"かいわれ大根"の人？」

診察室の奥で、そう自分が噂される日が来る事を誰が想像出来ただろうか。

私は、強烈で癖強さ最大レベル、ユーモア溢れるこの作品を、SFアドベンチャー小説として心に刻む事にする。現実と夢曖昧注意報発令



出演
緒川たまき
ケラリーノ・
サンドロヴィッチ

『砂の女』を
研究する
リーディング&トーク

ケムリ研究室
『砂の女』を研究する～リーディング&トーク～イベント...
2020年、劇作家・演出家のケラリーノ・サンドロヴィッチ (KERA) と、女優・緒川たまきが結成した演劇ユニット...
theatertainment.jp

安部



o.jp

yukina@yukina8809・5月14日

安部公房は期待を裏切らないです、むちゃくちゃ面白いです。

癖が強すぎて頭混乱しながらも頁が止まらない。

「かいわれ大根入りの味噌汁には、さすがに手をつけられなかった。」←途中からはもうこの一文だけでも笑えちゃう。

開放感溢れ頬が緩む金曜日の夜にピッタリな、お酒が進みそうな一冊です

今月の第四間氷期

音隅 管譜@otonezumi・5月13日

遠景にはいつも秩序がある。どんな奇妙な出来事だって、遠景のもつ秩序や枠からはみだすことなど、できはしない 『第四間氷期』 安部公房

今月の絶望と希望

うたうたいbot@hirari_ktnh・5月14日

.....人間にとって、いちばんの毒は、希望と絶望の化合物なんだ。希望に近づけば絶望が深まり、絶望から逃れようとするれば、希望も消え去る。並の毒と違って、死ぬことも出来ないんだ。

『愛の眼鏡は色ガラス/安部公房』

今月の読書会

WishToWalkAndFly@NeverKnownWorld

記録:第50回初代バーチャル読書会では安部公房の長編「第四間氷期」を課題図書として取り上げました。1959年に書かれたSFミステリー小説ですが、時代を感じさせる部分もあれば、色褪せない部分もあり、興味深かったです。(続)

午前11:27・2021年5月15日・Twitter Web App

今月の終わりし道の標べに

madeleine@storyforf・5月13日

故郷とは、要するに自分の足で踏みかためられた環境の一角の名称にしか過ぎぬのではあるまいか。それもただ、《かく在る》と言い続けるために.....。

だがふと《かく在る》のを忘れ去って、外の音に耳をすます。

——安部公房「終わりし道の標べに」

今月の箱男

熊五郎@davideraserhead・5月15日

リアル箱男！シュールでカッコいい！

引用ツイート

もぐら通信

月浦影ノ介@6VPfGQm1oGSP0es・5月15日

#眩怖 お前、タカシって覚えてる？ 小学生の時、いつもダンボール箱を頭に被った変な奴いたろ。久しぶりに卒業アルバム捲ってたら思い出したんだよね。でもアルバムにそんな奴いないんだよなあ。確かに同級生だったはずなんだが。ところでお前、タカシの顔見たことある？ 俺も見たことないんだよ。 twitter.com/hakowakeami/st...

月野 アルマ@aruma_chandora・5月14日

なんかいいことがありそうな夢ですね！
実はわたし人様の夢の話を書くのが大好き
漱石の「夢十夜」や安部公房の「笑う月」が愛読書
また面白い夢見たらおしえてくださいね！

今月の鞆（『笑う月』所収）

みき@miki_apreciar・5月12日

「雨の中を濡れてきて、そのままずっと乾くまで歩きつづけた、といった感じのくたびれた服装で、しかも眼もとが明るく、けっこう正直そうな印象を与える青年が、私の事務所に現れた。」

冒頭が強すぎる！好き！安部公房 鞆

今月の近代超克会議

アトレイデス@atoreides・5月11日

花田清輝の〈鉱物中心主義-近代の超克〉というヴィジョンには、盟友であった安部公房の作品との通底も覗けて。 或いは安部公房-三島由紀夫対談『二十世紀の文学』なども、遅れてきた〈近代の超克〉会議と読むことできるやもしれず。

今月の安部公房全集

ハンク@Hank_TRPG・5月11日

04 本の装丁が好きな本

新潮社版 安部公房全集

ほかにもいっぱいありますが、一番に浮かんだのがこれ。一見シンプルだけど、表紙の紙、外箱の窓、金属タグ、どれも非常にかっこいい。しかもイメージに合う。作り手の愛が感じられます。



もぐら通信

えぬ・かるま氏の散財見つけ！@kobo_spitz_2487・8分
蔵をリフォームして本棚置いて安部公房全集を並べるようにしたい。

今月の燃えつきた地図

inamura fumiya@inamura_do・5月11日

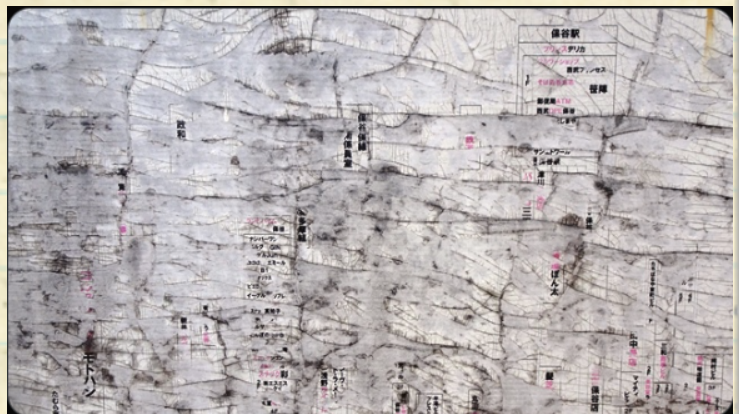
風景の不在ではなく、空間がのっぺらぼうになっている状態こそが、人工都市の特質である。ここにおいて、都市の言葉をつくりだそうとしたのが、安部公房の『燃えつきた地図』だった。▼『生きられたニュータウン』篠原雅武（青土社2015）

p062

西脇完人@kentestu・5月10日

燃え尽きた地図。

（黒白の地図を入れる）



今月の積分

ふえんのえん@huennomagine・5月12日

たしか安部公房の「感情の積分値」というワードがすぎ

今月の勅使河原宏

非おむる@Non_omuro・5月14日

斬新な手法！ #中村玉緒 #勝新太郎 #市原悦子 #渥美清 #燃えつきた地図 #勅使河原宏 #安部公房



今月の沼

永田▼白川奇譚

@naga_tatta・5月11日

安部公房の文章を一度読んだら二度と這い上がって来られない沼と表現してる人がいたけど、なんとなくわかるな。沼にはまる心地は悪くないけどまとわりつく泥が不快じゃないと言えば嘘になる。ようなそんな感じ...

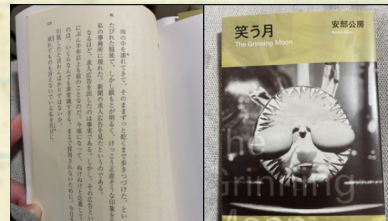


今月の藤野君 (『笑う月』所収；『周辺飛行43および44』)

飯テロ小説bot@nuenonamae-5月11日

親指ほどの太さもある、チョコレート・キャンディだった。つまり、容器にふさわしい内容だったわけである。藤野君は、赤い大きな舌を出して、そのチョコレートの棒をしゃぶりはじめる。ひと舐めごとに、息を入れ、ゆっくり時間をかけて、しゃぶりはじめる。

安部公房「藤野君のこと」



今月のSF思考論

高野敦志@lebleudeciel38-5月17日

S F 的思考 (pdf) <http://takanoatsushi.seesaa.net/article/481533739.html>...

@lebleudeciel38

より #SF #ジュール・ヴェルヌ #スタニスワフ・レム #安部公房

<http://takanoatsushi.seesaa.net/article/481533739.html>

今月の労働価値論

Manus (マヌス) | BLM | de@kojinmanus_dt-5月12日

『労働を越える道は、労働を通じて以外にはありません。労働自体に価値があるのではなく、労働によって、労働をのりこえる.....その自己否定のエネルギーこそ、真の労働の価値なのです。』

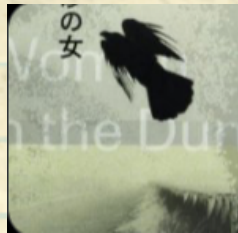
Aus 砂の女 (すなのおんな, Die Frau in den Dünen) von 安部公房 (あべ こうぼう, Abe Kōbō), 1962

今月の砂の女

猫田猫三 timão@brat0528-5月14日

ナイス 【砂の女 (新潮文庫)/安部 公房】 主人公の男は「新種を見つけて図鑑に自分の名前を残したい」という野望を密かに持っています。昆虫採集に出かけ、ある村で逆に自らが砂の穴の底に採集されてしま... → <https://bookmeter.com/>

<https://bookmeter.com/reviews/98339708...> #bookmeter



砂の女 中村ですさんの感想 - 読書メーター

砂の女。主人公の男は「新種を見つけて図鑑に自分の名前を残したい」という野望を密かに持っています。昆...

bookmeter.com

kamome

@kamome・5月15日

『砂の女』で「30男は輪郭に欲情し、40男は触感に欲情する」のようなことが書かれていたけれど、“確かに、肌に欲情、かぁ”とは思ったなあ。<https://kamomelog.exblog.jp/32078841/>



西田亮介/Ryosuke Nishida@Ryosuke_Nishida・5月10日

最近、職業としての教員はとても不思議な仕事だと感じている。学生達は入れ替わりつつもいつも概ね同じ年頃である一方、教員は毎年一つずつ歳を重ね、良し悪し別に指導の経験値を蓄積していく。『方丈記』的であるのと同時に逆ピーターパン的でもある。そしていつも抽象的な意味でのキャンパスにいる。

安部公房『砂の女』：不意に陥る神話的象徴状況での性的衝動 | 鴉庵
安部公房『砂の女』は前から読んでみたい。あまりにも知られたこの小説、この感想文では、終局部は書かずともかなりの程度内容のネタバレしに...
kamomelog.exblog.jp

メモ用@VtucSledtWRzFyl・5月11日

安部公房の「砂の女」の主人公の教師と同じ感慨。

今月の大坪命樹

文藝同人無刀会@5/26月燈マルシェ え-4@CoterieMutoukai

5月11日

「鞭と人参」大坪命樹著。大坪は、若いときに安部公房に感銘を受け、奇を衒ったような小説を、背伸びして書きました。

絵画の影響を色濃く受けた、シュールレアリスティックな短編「眼」「鞭と人参」が収録されています。<https://mutoukai2014.base.shop/items/22392983>



鞭と人参 | 無刀会ベースショップ
この作品は、作者大坪命樹の初期作として、以後の作風に決定的影響を与えた問題作二作を収録しました。「鞭と人参」の方は、執筆当時長崎で...
mutoukai2014.base.shop

今月の密会

あじさわ@ajisawakou・5月10日

安部公房「密会」では、ウマ娘ならぬ“馬人間”が登場する。インポテンツの医者が自身の腰部に死去した人間の下半身を繋げて代用ペニスにするという設定。エログロナンセンスであり、また時系列の構成がトリッキーでぐいぐい引き込まれる小説だった。また読みたくなってきたぞ。

もぐら通信

今月の弱者への愛

mi-ko@miko37594303・18時間

ウィシュマさんの悲しい事件に対するコメント欄が異常で、頭から離れない。
安部公房の『公然の秘密』の一節、「弱者への愛には、いつだって殺意がこめられている」が頭をよぎった。
ご家族の為にも、情報の開示を願います。

今月の闖入者

スナスナスナツキン@SnaS66on6・5月15日
か、か、家族できた.....

スナツキン、ヤバい家族っていうと、韓国の半地下の御一家かアダムズファミリーか、安部公房の「闖入者」しか浮かばない.....

今月の他人の顔

みみ@m1misan・12時間

安部公房の『他人の顔』をずいぶん前に読んだことがあるけど、内容も覚えていないし、当時の私の知能では十分に理解できなかっただろうから読み直したいな。

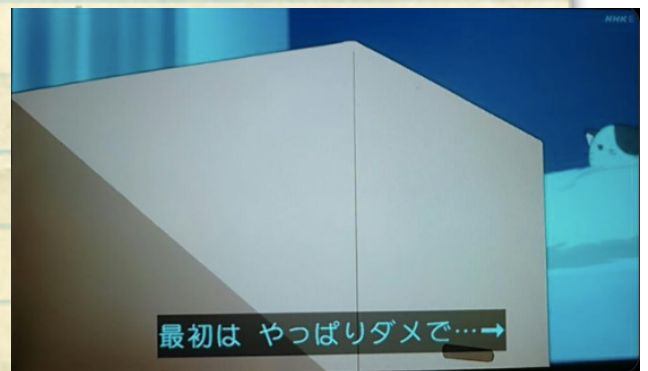
今月の箱男

南蛇井(なんじゃい)@nanjai_2011・5月16日
安部公房「箱女」#虹ヶ咲

今月の三島由紀夫

田畑稔@tabataminoru・5月13日

三島だけではない。かつて作家は物書きを超えて思想家だった。漱石、芥川、川端、安部公房、樋口一葉、宮本百合子...は時代を代表する知性だった。比べて現代の作家は...



安部公房の広場 | | www.abckobosplac

<あのことろ>三島由紀夫、東大乗り込む 全共闘と討論会 | 共同通信
1969(昭和44)年5月13日、東大全共闘が主催した討論集会上に作家の三島由紀夫氏が出席。1月に安田...

📍 this.kiji.is

今月の満洲帝国

ことばのbot@kotoba4839.5月16日

「でもそれが、そんなにつらくなかったね。人間てしょせん、いつでも何かを失っていくほうが幸せだと思ってた」

安部公房 自分の祖国、満州がなくなったことに対して

今月の箱男2

『呪いの巨人ファン』



巻頭詩

(17)

『古今和歌集』二十一番

光孝天皇

君がため春の野に出て若菜摘む
わが衣手に雪はふりつつ

周辺飛行

(42)

3. 『周辺飛行』について (21)

周辺飛行39—公然の秘密

岩田英哉

この周辺飛行の書き出しを三つ考へました。

1. この周辺飛行はエッセイ集『笑う月』に同じ題名で収載された時には最後の一行が付加されており、これが、安部公房のいひたかつたことである。

「やがて仔象は、古新聞のように燃え上がった。」

勿論古新聞とは安部公房の超越論による「明日の新聞」のことである。

2. この周辺飛行と同じ題名を持つ安部公房スタジオの上演した『仔象は死んだイメージの展覧会III』は、初期安部公房からの小説家及び劇作家人生の、安部公房の集大成である。

3. 「公然の秘密」といふ題名は、この周辺飛行を読むとすぐに判るやうに、実は『密会』（1977年）の冒頭の、読者には余りに有名なるエピグラム「弱者への愛には、いつも殺意がこめられている」といふ意味なのである。としたら、どこにでも遍在してゐながら、誰にも認知されぬ、されぬどころか無視されて続けて日常に生きる《箱男》もまた公然の秘密である。としたら……、としたら…… と幾らでも公然の秘密と作品の題名は結びつき、要するに、安部公房の世界とは公然の秘密の世界であるといふことになり、なるほど、それで安部公房の読者はいつも何か罪を犯してゐやしないか、いや犯してしまつてゐる共犯者なのだといふやうな共感を人間といふ生き物について共有してゐるのである。いつの間にか、私たちは、世間が臭いものに蓋をしてゐる事物（例：ゴミとか糞尿とか便所とか）といふ公然の秘密（さういへば公衆便所ですら公衆トイレとか化粧室などと云つて誤魔化して公然の秘密としてゐる。安部公房の撮影した公衆便所の写真の『箱男』に挿入してゐるのはまさしくこの故である其の無意識の検閲）を解き放した自由の世界を密かに共有してゐるといふことである。

さて、このやうにあれこれ思案の末、結局安部公房の読者らしく、いつもの通り、「終りし道の標べ」に立つて始めることにします。即ち、最初に最後のことから始めて、上記三つのことを述べることにします。メビウスの環の接続線の始めで終はり終はり始めるといふことです。

この周辺飛行の最後は次のやうに終はつてゐます。

「『緑色のストッキング』最終日の夜の夢である。仔象の皮膚が緑が勝手いたこと以外、どういう関係があるのか、自分にもよく分からない。それでも可能なかぎり忠実に再現してみたつもりだ。「公然の秘密」というタイトルも、夢のなかですでに準備されていた。この意味も、分かったやうで、分からない。タイトル付きの夢というのも、考えて見れば珍しい。」

「緑色のストッキング」最終日の夜の夢が、この「公然の秘密」といふことであれば、正反対に「緑色のストッキング」の緑色もまた、この戯曲も公然の秘密を巡る戯曲である、時間の無い、無時間の空間の話であるといふことが判ります。この仔象も従ひ其の命名の用字法からいつても最初から話の始まる「以前」に存在の話であるといふことです。この世では仔象は死者として生きてゐる。それ故に誰にも見られようとはせずに、そこにゐて生きてゐる。『赤い繭』の冒頭は次のやうに餓えた青年の隙間の話で始まつてゐる。この隙間を私たちは普段は道と呼んでゐる。道は建物と建物との隙間・凹を縫つてゐる。その凹を徒歩か自動車では歩き、また移動する。

「日が暮れかかる。人はねぐらに急ぐときだが、おれには帰る家がない。おれは家と家との間の割目をゆっくり歩きつづける。街中こんなに沢山の家が並んでいるのに、おれの家が一軒もないのは何故だろう？……と、何万遍かの疑問を、また繰返しながら。」

仔象は掘割と云ふ凹の、「なかば埋めたてられた掘割」があつて、その底には「泥と汚水がねつとりとよどんでいる」中に生きてゐて、その上には「捨てられて古自動車などが、薄い粘土の皮膜をかぶつて、レリーフをつくつてゐる」、そのやうな掘割である。

この「捨てられて古自動車」は、『方舟さくら丸』の初段で、《方舟さくら丸》の中へと入り込み地下の空間へと降りて行く入り口である、あのスバル360と同じ廃物としての自動車です。読者におかれては、『箱男』に挿入された写真の一葉が、自動車の廃棄処理置き場だといふことを思ひ出しても良い。

誰にも見捨てられた、このやうな存在への入り口である廃棄物を誰も見ようとはしないのは何故であらうか。この文章を読むと、私は何か郷愁と云ふべきもの、前の「創造の哀しみ」といふ副題のついた周辺飛行にあつた哀しみ、切なさ、哀愁、懐かしさと云ふ感情を思ひだす。これはこのまま、安部公房の好んだ廃墟（例：軍艦島）の写真にも通じてゐる郷愁であり哀しみです。ドイツ語のHeimweh・ハイムヴェーと云ふ言葉を安部公房は知つてゐた、そのやうな、思へば、ふるさとへ帰り

たいと云ふ懐かしさの感情です。さうして、既にここは《方舟さくら丸》の空間であり、《掘割》の凹である以上、永遠に故郷へは行き着かない。『箱男』に挿入に一葉が、動かぬ自転車に一切合切の家財を積んで、永遠にねぐらに辿り着くことのない姿と同じである。《掘割》の上に廃棄されてゐるスバル360の、これは姿であり、廃棄物である以上、このことに有機物も無機物も無関係に存在として生きてゐる。

初期安部公房の後の作品の地の文のやうに存在論の記号を外して話を続けよう。

この掘割の泥の中から、仔象が立ち上がつて姿を現す様子は、安部公房の筆力の見せる独壇場で、私が要約することはできない。それほどにそれ以外に書きやうがないと云ふ風に過不足なく哀れな仔象の姿を写してゐる。

弱者への愛には、いつも殺意がこめられている

この愛を、掘割をやつとの思ひで出て「ゆっくり、崩れた掘割の斜面をのぼりはじめた」「飢えた」仔象について安部公房が書くとかうなる。

仔象は「地中に埋められた枯木の腐りかたに似て」「植物の腐りかた」のやうに足元から腐つて行きながら斜面を登つて行く。腐つて行くので「期待に反して、仔象の足取はしだいに軽くなる。体重がほとんど無くなってしまったせいだろうか。」

弱者への愛には、いつも殺意がこめられている

「腹が立ちはじめた。なんという無邪気さ。誰ひとり仔象を元の泥の中に突き落そうとしないのは、ほんのちょっとしたはずみに過ぎないのに。」

この無邪気さとは仔象の姿、愚鈍さとは見物人の愚鈍さであり、話者は後者を「我慢のならない愚鈍さ」と呼んでゐる。前者は、人が弱者に抱く殺意の動機である。

この見物人の無邪気な愚鈍さを巡つて、戯曲『棒になった男』でデパートの屋上から落下して棒になって地上に乾いた音を立てて転がって溝の中に落ちて忘れられてしまった其の《棒》を巡つて会話を交はす、存在からの謂はば天使たちの話を、やはり同じ存在の場所にゐる天使たちが話すのである。

この場所は、古事記ならば《天の浮橋》と呼ばれる存在論の橋であり、安部公房の世界では、この存在の橋はエッセイの冒頭に「なかば埋めたてられた掘割に、古いコンクリートの橋がかかっている」と在る、隠れた凹の上に架かつてはゐるが「いずれは取壊されて、掘割の中に埋められてしまうのだろう」と云ふ橋である。この

橋は『阿波環状線の夢』の冒頭の夢に出てくる線路に架かる跨線橋と階段の情景に似て同じです。この跨線橋は、性的な暴行がゆるぎされてゐるといふ「風習がなぜいつまでも黙認されつづけているのか、誰しも納得しかねる事だろう」といはれながら、その行為の正当化の理由が「最後まで半信半疑のままだといふこと」で公然の秘密の場所である。さて、橋の上での地獄の天使たちの会話：

「どぶの中だからって、油断したのがまずかったんだ。」
 「あそこに象がいることは、誰もが知っていた。いわば公然の秘密でしたね。しかし、いないのも同然だと信じていたからこそ、許せましたんだ。」
 「いるはずのないものが、いくらいたって、いないも同然さ。」
 「つまり、やつは存在しないのだから、存在すべきじゃない。」
 「腐りきるまで、あの中でじっと待っていてくれりゃよかったのに……」
 (傍線は原文傍点)

かうしてゐるうちに、誰かが橋の上からマッチ箱を投げつける。中には「すでに火を吹いているやつさえあった。ガス・ライターも数箇はまじっていたような気がする。」

かうして、飢えた仔象である。「仔象は哀れなほど無邪気に食べつづけ、ぼくらの間には、しだいに殺気がみなぎりはじめていた。それはそうだろう、弱者への愛には、いつだって殺意がこめられているにきまっている。誰だって、それほどの無邪気さを許したりなんか出来っこない。」

「やがて仔象は、古新聞のように燃え上がった。」

「この周辺飛行と同じ題名を持つ安部公房スタジオの上演した『仔象は死んだ イメージの展覧会III』は、初期安部公房からの小説家及び劇作家人生の、安部公房の集大成である」と述べました。この劇といふべきか、文字通りに「イメージの展覧会」にあるイメージは、次のものです。

この『周辺飛行39』の最後は冒頭引用した仔象の皮膚が緑色がかつてゐたことへの言及で終はる。安部公房にとつての緑色について再掲します（「周辺飛行（37）：〈このところ〉周辺飛行35」（もぐら通信第126号））。緑色は公然の秘密を意味する色らしい。本格的に詳細に論じたものは、『もぐら感覚（21）：緑色（1）』（もぐら通信第25号）及び『もぐら感覚（21）：緑色（2）』（もぐら通信第26号）をご覧ください。

「安部公房の連想は、全く詩的に、緑色といえ、死である（殺鼠剤、自殺幫助協会）、愛であり（愛の眼鏡の色ガラス）であり、陰画の太陽の光であり（熟練した

技術者が細心の注意をはらって剥ぎ取った、厳冬の太陽の薄皮)、旅する故郷であり(行きだけで帰りのない列車が向う始発駅)、これらのことが、いつも安部公房の主人公が、窪み(としての閉鎖空間)から脱出するときには(この場合[引用者註:箱男の箱の場合]は箱という閉鎖空間)、「厚い板ガラスの切口」を見て、そこに多次元的な層にある世界を幾つも見るのであります。この「板ガラスの切口」が何を意味するかは、10代の詩にまで遡って「もぐら感覚19:様々と窪み」(もぐら通信第17号)に詳述しましたので、ご覧下さい。」

仔象は、死であり、愛でありであり、陰画の太陽の光であり、厳冬の太陽の薄皮であり、旅する故郷であり、行きだけで帰りのない列車が向う始発駅であり(Gotta one way ticket to the blues, woo woo——; 『砂の女』第二部第23章冒頭)、窪み(としての閉鎖空間)から脱出するときには「厚い板ガラスの切口」を見て、そこに多次元的な層にある世界を幾つも見ると箱男である。

このやうな生態系を、人間も含めて世間の人々は赦すことも許すこともできないのは、この生態系に生きるためには、弱肉強食ならぬ、強肉弱食でなければならないからである。この人々は弱肉強食に言葉の意味を認めても、強肉弱食に言葉の意味を認めることができず、non-senseだと思ふからである。それ故に、

弱者への愛には、いつも殺意がこめられている

それ故に、いつも

やがて仔象は、古新聞のように燃え上がった

追伸

日本人はもともと弱気を助け、強気を挫くと云ふことが善である人々の筈であつた。いつこの道徳を日本人は捨てたのであろうか、否、捨てたのではなく、忘れただけなのか?さうであれば、あなたたちは、自分自身を想ひ出すために、一度掘割の泥の中に身を潜めて、緑がかつた皮膚をした仔象のやうに死にむかつて腐りながら斜面をゆつくりと登つていくがいい。

二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック

Part I

塔の文学

(12)

目次

Part I 塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
4. 安部公房の塔と埴谷雄高の塔
5. 小林秀雄の塔と安部公房の塔
6. 安部公房の塔と大江健三郎の塔
7. SF文学史を伝統的な日本文学史に上位接続 (conjunction) する
- 7.2 一体二つの文学史はいつ何処で上位接続して一体となったのか
- 7.2.1 何故川端康成は安部公房の『壁』を芥川賞に推したのか
- 7.2.2 「安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論」から引用して、二つの文学史の同時代性の重なるの文学的な潮流を吟味する
- 7.3 ヨーロッパの近代小説とは一体何であつたのか？
- 7.4 そもそも日本文学に云ふ小説とは何か
8. 安部公房の塔と倉橋由美子の塔
9. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔 $\neg(F \times f)$

Part II 『文章読本』論

Part III 実践篇：小説『S・カルマ氏の逆襲』（英訳版・原題『The Fight Back of S. Karma』）：S・カルマ著〔翻訳〕岩田英哉

8. 安部公房の塔と倉橋由美子の塔

倉橋由美子による『密会』評が、当時刊行された本の箱の裏に、ドナルド・キーンと大江健三郎の評と併せて三つ目に印刷されてあるので、これを引用して、二人の文学を論じたい。倉橋由美子の評は、そのまま倉橋由美子といふ作家の世界の解説に應用できると私は思ふ。しかし同時に、(1) 突然の誘拐、(2) 迷路である現実と夢、(3) 時間の存在しないこと、これらを簡潔にまとめてある此の文章は、確かに正確な安部公房の世界の特徴を捉へてある。これは、安部公房が倉橋由美子の『聖少女』について述べてある「存在と本質の関係の物語」でもある。

「ある夜明けに突然妻が救急車で連れ去られたまま行方不明になる。主人公と共にこのカフカ風の入口をくぐると、そこには超現代的な病院、独自の安部公房氏の空間が広がつてゐて、砂のやうに克明な文体で作られた迷路が続いてゐる。ここにはも

時間がない。主人公の思考も行動も悪夢に似てことごとく無効だからで、これが現実にも起りうることに気付いた時、私たちは恐怖に襲はれる。

ここには出口はない。私たちは主人公とともに砂の迷路の中に残される。しかしそれが面白くて私たちは何度でも安部氏の空間に迷ひこまずにはみられない。久し振りに出現したこの『密会』は強烈な吸引力を持つ小説空間である。」（1977年）

安部公房が、倉橋由美子の『聖少女』について書いた書評は次のものである（「倉橋由美子著『聖少女』」全集第19巻、319ページ）。

「これは、はなはだ技巧的な、男女の葛藤の物語である。とつぜん、霧の中から湧いて出たような、記憶を失った少女。その少女の内部にせまり、実体を与え、自分のうちに接木しようと努力する青年。だが一切は、嘘という優美な刃物にほんろうされて、霧はますます深まってゆくばかりなのだ。しかも読者を不思議に硬質な認識に導いてくれるのは、方法として自覚されつくした、うその美学のせいにちがいない。現に私は、この男女の関係を、いつの間にか、存在と本質の関係の物語として読みとっていたものである。」（1965年）

安部公房の「概念の塔」を私たちは知つてゐるが、さて、倉橋由美子の塔は一体どこにあり、それは何と呼ばれてゐるものか。

（以下次号に続く）

糞尿と性愛の文学

～生殖器・排泄器同一社会論仮説～

(3)

岩田英哉

1。古事記の中の糞尿と性愛

1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）



7.5 政治形態EとAの公私：一神教のtopologyの政治形態

岩田英哉

目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
- 4. ネット・モナド論
- 5 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
- 7. 政治形態と自由
 - 7.1 政治形態とは何か
 - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
 - 7.3 ビルダーベルク会議とダヴォス会議と国家との関係
 - 7.4 メディア・プロパガンダの構造
 - 7.5 政治形態EとAの公私：一神教のtopologyの政治形態
 - 7.6 政治形態Jの公私：高天原のtopology（超越論）の政治形態
- 8. 経済形態と自由
 - 8.1 経済形態とは何か
 - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか：江戸時代幕藩体制下の信用取引に学ぶ
 - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
 - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
 - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
 - 9.3 グローカリストとしての千利休と後裔たち（令和時代の人間像）

7.5 政治形態EとAの公私：一神教のtopologyの政治形態



Mole Hole Letter

(56)

フォークソング・国民の歌
キンタマを抜かれた男たち

岩田英哉

今の団塊の世代が若かつた時に流行した北山修作詞・杉田二郎作曲のフォークソング「戦争を知らない子供達」の曲に、二十一世紀の日本の国に今こそ相応しい歌詞をつけ直しました。

特に財務省・経済産業省・文部科学省の朝礼で毎朝、それから経団連に属してゐる大企業の日本の会社の社内で毎朝朝礼で、心を籠めて、美しい声で斉唱してほしい。経営者の優れた経営的決断によつて、世界中の子会社で歌ふことは、日本の政府によつて、武漢ウイルス用ワクチンと同様、大いに推奨されてゐる。

歌手：ジローズ

デビュー当時の曲は：<https://www.youtube.com/watch?v=gUX2qO113AQ>

中年になつてもまだ子供として歌つてゐる二人の姿は：<https://www.youtube.com/watch?v=l4JpZvgzA04>

詞は：<https://j-lyric.net/artist/a001fc8/1004e27.html>

キンタマを抜かれた男たち

キンタマを抜かれて 僕らは生まれた
キンタマを抜かれて 僕らは育った
おとなになつて 歩きはじめる
平和の歌を くちずさみながら
僕らの名前を 覚えてほしい
キンタマを抜かれた 政治家たちさ

キンタマないからと 許されないなら
キンタマないからと 許されないなら
今の私に 残っているのは
キンタマ抜きで 歌うことだけさ
僕らの名前を 覚えてほしい
キンタマ抜きの 官僚たちさ

赤い空が好きで 札幌が好きで
いつでも笑顔の 偽善の人なら
誰でも一緒に 歩いてゆこうよ
どす黒い夕陽が かがやく裏道を
僕らの名前を 覚えてほしい
キンタマ抜かれた 社長たちさ
キンタマ抜かれた 社長たちさ

ついでに生まれた、好きな男のための奴隷になりたいといふ素晴らしい歌。

歌手：奥村チヨ

曲「恋の奴隷」：<https://www.youtube.com/watch?v=o8yQr92G-x4>

詞：<https://j-lyric.net/artist/a000b11/1002308.html>

恋の奴隷

あなたと逢ったその日から
中国奴隷になりました
あなたの膝にからみつく
小犬のように
だからいつもそばにおいてね
邪魔しないから
悪い時はどうぞぶってね
中国好みの中国好みの
男になりたい

あなたを知ったその日から
中国奴隷になりました
左と言われりゃ左むいて
とても幸せ
影のようについてゆくわ
気にしないでね
好きな時に思い出してね
中国好みの中国好みの
男になりたい

あなただけに言われたいの
可愛い奴と
好きなように私をかえて
中国好みの中国好みの
男になりたい

[註]

中国を、その時々、アメリカや台湾やドイツやロシアなどの、あなたの好みの国名に入れ替へて歌つて下さい。狂気から覚醒して、まともな人間になつてもらひたい。あつ、日本に入れ替へて歌ふことは、勿論素晴らしいことです。これで、あなたの諸外国に対する被害者意識と被害妄想は払拭されることせう。あれ！？日本は外国？さう、今の政府と官僚と経営者たちの深刻な被害者意識にあつては、もはや日本は外国なのであります。だから、小学生に英語を教へようとか、会社の中の言葉を英語にしようとか、まあ、馬鹿なことをやつてゐる外（とつ）国の日本国です。正式の漢字の国家表記を、日本から二本に変へては如何かと存ずる。筆は一本也、箸は二本也、衆寡敵せず（斎藤緑雨）と云ふべきか。しかし、嗚呼、箸二本で食ふための飯の種が日本の国の産業界から消えてゆく。

私からの提案：

- (1) 現行日本国憲法の後ろに隠れてゐる英語版の日本国憲法が実は正式の日本国憲法であると世界中に公表し、これを英語で日本中の学校で教へること。
- (2) この公表までの過程を関係する国会議員や官僚や地方自治体の教育委員に至るまで全て英語で議論をし、それをネットメディアで世界中に放映すること。
- (3) 国会決議が必要なら、それを議員は英語で立法すること。
- (4) 全ての関係する記録は英文で残し、日本語は存在しないので、あればそれは何かの間違であるからして、全て廃棄すること。

私の願望：国会議事堂で、日本の国会議員たちが英語で議論する姿を見てみたい。是非やつて下さい。陳情すればいいのかな？もちろん、私の受けてきた英語教育では、そんな芸当はとてできないことを最初にお断りしておきます。

更に、優れたる男（をのこ）の附記：

かくなる歌を歌ひながら、私は大正以来（私のフェミニストといふ語の初見は志賀直哉の小説にあり）昭和を経由し平成から令和の今の御世に生きる全ての自称フェミニストを、男女の別を問はず（どうだ本望だらう）、キンタマ女と呼んでゐる。やい、上野千鶴子、てめえ、そんなに男と対等がいいなら、禪を締めて見せてみやがれ、男が禪を締めると緊禪一番、隆々たるものだが、オメエが締めると、ただ食い込むだけだ。（中村錦之助演じる一心太助がある東映の時代劇の中で吐いた、子供心に記憶のある素晴らしい啖呵）

縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く

(15)

岩田英哉

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかゐらないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

5.9 日本位相習合史

5.1.0 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.1.1 かごめかごめの歌は一体何を歌つてゐるのか

5.1.2 縄文土偶とは一体何か

5.1.3 習合といふ漢意をやまとこころで何といふのか

5.1.3.1 位相史のための紀元の分類

5.1.3.2 淤能基呂島とは何か

5.1.5 縄文土器とは何か

5.1.6 大祓へを読み解く

5.1.6.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.1.6.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.1.6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

5.1.6.4 八の音義は何を意味するか

5.1.6.5 誰が「しろし召す」誰が「聞こし召す」のか

5.1.7 紫式部の超越論『源氏物語』

5.1.8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.1.9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.2.0 日本人はどこから来たか

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか (5)

5.1 6.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.1 7 紫式部の超越論『源氏物語』

5.1 8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.1 9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.2 0 日本人はどこから来たか

目次

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか (5)

A 箱根神社の三柱の御祭神の名前

B それでは、瓊瓊杵尊は一体どこから天下つて来たのか

C 最初の瓊瓊杵尊は、何処からミコトを持ち運んで来たのか

D 何故日本の国は古事記と日本書紀といふ二種類の書物を必要としたのか

E カミとミコトとヒトの違いと同じであることについて

F 国学とLiberal Artsの統一と普遍学 [universal science] としての日本学 [Japanology] の成立

G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さ (90万年) は何を意味するか

H 古代の天皇の寿命の長さは何を意味するのか

I 国学の超越論：賀茂真淵と本居宣長の超越論

J 道元禅師の超越論

K カミとは何か再説

L 大祓に書かれてゐる場所ほどのやうな場所であるか

M 日本語の音義とひらかな・カタカナ・漢字の関係

N 国学言語論と欧米言語学の関係

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか (4)

G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さは何を意味するか (2)

再度神武天皇以前と以後の話を続けたい。既述の通り、座標A、A'、A''の三つの場合に於いて、次の通りのはつくにしらす・スメラミコトが、少なくとも日本列島に関係しては、ゐるのです。「遠津祖の話を日本書紀にあつて「諸々の兄 (いろね) 及び子等 (みこたち)」に語つた神武天皇は少なくとも二代目の神武天皇である。」と云ふ私の断定を、これから先の「H 古代の天皇の寿命の長さは何を意味するのか」といふ問に答へるために少し留保して、今までの通説である通りの最初の神武天皇を漢文字で書き、それ以前の初代の天皇をやまとことばで、はつくにしらす・すめらミコトと書き表すことにして、再度次のやうに整理します。即ち神武天皇を従来通りに固有名詞として扱ひ、普通名詞の呼称とはしないと云ふことですので、瓊瓊杵尊はそれぞれの時期の遠征のための先駆けであり前触れの使命を負つて天降ると云ふ私の理解に異同はありません。しかし、再度神武天皇以下の寿命の長さを考へるために日本書紀巻三の冒頭「神日本磐余彦 天皇 (かむやまといはれひこのすめらみこと) 神武天皇」の条の出だしを読み返しますと、神武天皇曰く「昔我が天神 (あまつかみ)、高皇産霊尊 (たかみむすひのみこと)・大日靈尊 (おほひるめのみこと)、此の豊葦原

瑞穂国を挙（のたまひあ）げて、我が天祖彦火瓊瓊杵尊（あまつおやひこほのにぎのみこと）に授けたまへり」とありますので、この同一視の一般化はあやまつてみますので、大祓にある瓊瓊杵尊と神武天皇の呼称同一への漢字による一般化は止めて、文字の上では前者と後者を区別して切り離して論じることとします。しかし個別に論ずる場合には、箱根神社の御祭神の主たる神である瓊瓊杵尊がはつくにしらす・すめらミコトであるといふ同一視があり得るといふ可能性（possibility）は、どんな場合があるかわかりませんので、依然として論理上残して置きたい。変更・追加箇所には傍線を付しました。矢印→は、瓊瓊杵尊の天降りを受けて初代のすめらミコトが遠征するといふ時系列の順序を示してあります。

（1）第一の邇邇藝尊→はつくにしらす・すめらミコトの北征：座標A→座標A`の変形（ズラシ）：島嶼ネットワーク国家から東国三社の場所への天降り（上陸）：これは伊豆箱根の活火山の活発な時の天降りなので、早ければ3000年前。勿論これ以前に関東以北に国々があつた。

（2）第二の邇邇藝尊→はつくにしらす・すめらミコトの西征：座標A`→座標A``の変形（ズラシ）：大倭日高見国から九州の高千穂の凹の形象への天降り（上陸）：これは活火山の噴火の収まった後なので（6300年前に活動は終息〔註3〕）、いづれにせよ高千穂の凹の形象への天降りは上記（1）の3000年前以降の時間のどこかで行はれた。

（3）第三の邇邇藝尊→はつくにしらす・すめらミコトの東征：座標A``→座標A```の変形（ズラシ）：はつくにしらす・すめらミコトは、普通にいはれてゐる神武初代天皇のこと。日本書紀巻第三冒頭にある神武初代天皇のいふ「我が天祖彦火瓊瓊杵尊」の天降りは、私の論ずる文脈では第三の邇邇藝尊。

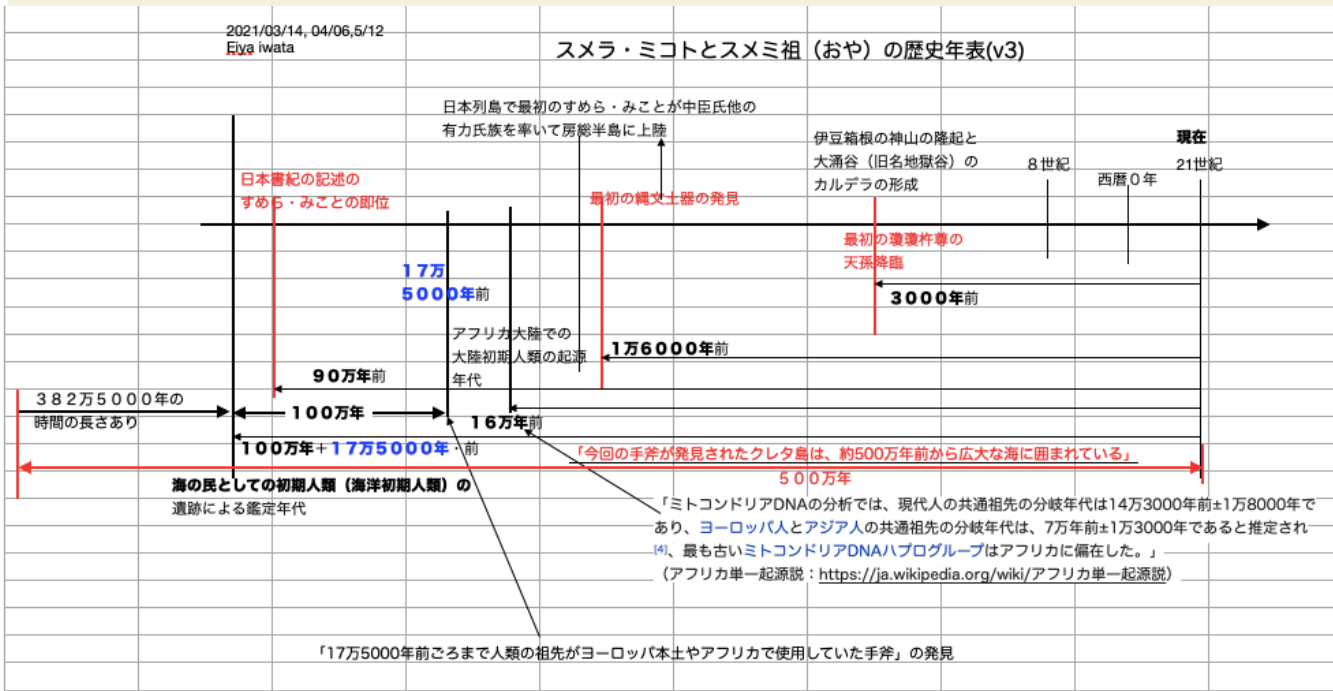
（4）第四の瓊瓊杵尊（相当の役割を演じた父子）→はつくにしらす・すめらミコトの東征：座標A```→座標A````：10崇神天皇としての、はつくにしらす・すめらミコト。第四の瓊瓊杵尊はもはや名前の通りににぎにぎしい感じのしない瓊瓊杵尊役といふべき父子で一役のミコトである。しかし、父子であるといふことに、父（0、1）・息子（1、1）といふ意義がある。このデジタル式の暦法の表示については後述します。

この四度の座標変換または座標の移転を前提に、次の問い即ち、はつくにしらす・すめらミコトの「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さは何を意味するかの補足を致したい。田中英道著『日本神話と同化ユダヤ人』の「第六章 遺伝学からみた日本人とユダヤ人の共通性」より、関係する箇所を引用します（同書252ページ）。

同著のこの章は本来はユダヤ人と日本人に共通する遺伝子の構成要素の共有に関して述べた章であつて、二つの民族で共有する遺伝子はY染色体といふ父系遺伝の染色体のD系統に属する下位系統のうち「『YAP』という特徴的な変異があり、その『YAP』

はDE系統のみに存在し、他のグループには存在しない、という。このE系統を持つ民族が、ユダヤ人である、と指摘されてゐる。」といふ既述と同時に、同じDE系統を持つ人々がゐて、「Y染色体のDNAによる分類をすると、日本人と地中海の人々が、何と同じDE系統になる、という」のです。「東アジアは、O系統であり、オセアニア・南アジアがK系統になるという。」付記すれば、日本人特有の帰属するD系統の分類によれば、「ほぼ100%近くがD2系統であるとされる。遺伝的に近いはずのチベットや東南アジアがD1とD3系統である。しかもこの特殊なD2系統は世界の民族でも日本人にしか存在しない、日本特有の系統であると指摘されている。大陸や半島など地理的に近い諸国では、Y染色体のD系統が存在しない。」そして、このあとに『YAP』といふ特徴的な変異の説明から上記DE系統を共有するユダヤ人の話になるのです。ユダヤ人の遺伝子の系統がこれだけの痕跡を日本人の遺伝子に残してゐるといふことは相対的に見て相当の数のユダヤ人が日本に移住して来たといふことを意味し、同時にこのことは、今この遺伝子に痕跡を残すことと相対的な移住人口比率の問題は別にして、エーゲ海の島の民の間でもまた、同様の移住が日本人の祖先との間にあつたといふことを意味してゐます。

この記述から海の民のことに話を絞りますと、日本人と地中海の人々の間に交流があり、行き来があつたといふことの科学的事実の証明だといふことになります。この場合、エーゲ海の島々と交流を深くした日本人の祖先は南太平洋の座標Aに存在する島嶼の人々であつたと考えることができます。前の章で上掲した「スメラ・ミコトとスメミ祖（おや）の歴史年表(v3)」をご覧ください。再掲します。その上で更に手を加へた版を後掲します。



この図を説明した文章は次のものでした。下線を施した島は地中海にある有名な島の名前です。

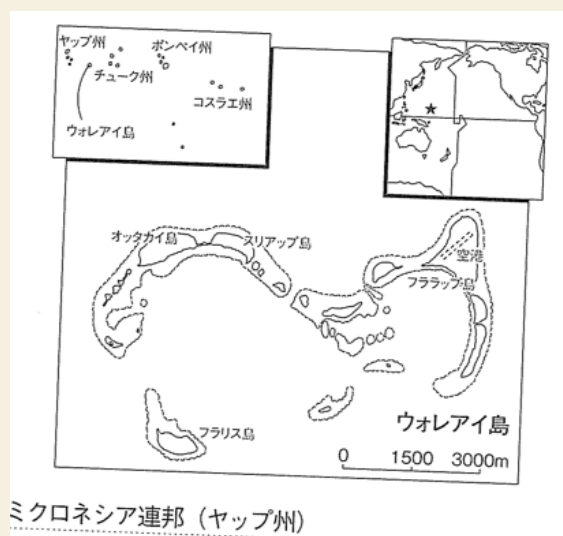
「現地産の石英から削り出されたその粗雑な斧は、17万5000年前ごろまで人類の祖先がヨーロッパ本土やアフリカで使用していた手斧と類似していた。捕獲した動物の骨や肉を加工したり、皮を剥ぐのに使われる石器であり、約100万年間そのままの形で受け継がれてきた技術とみられている。

今回の手斧が発見されたクレタ島は、約500万年前から広大な海に囲まれている。

つまり、高度な工作技術を持った現生人類以外の何者かが、数万年間にわたって地中海の島々を転々としていた可能性が出てきたのである。ホモ・ネアンデルターレンシス（ネアンデルタール人）か、ホモ・ハイデルベルゲンシスか、ホモ・エレクトスか、あるいは初期のホモ・サピエンス（現生人類）だろうか。」

このクレタ島を巡る500万年といふ時間の長さを上記の図中に取り入れると次のようになります。ダウンロードは：<https://docdro.id/og3WDdh>

クレタ島そのものではありませんが、エーゲ海にあるサントリーニ・カルデラ（Santorini caldera）と呼ばれるカルデラがあつて、これは「エーゲ海南部に存在するカルデラ。大部分は海中に没しているが、外輪山に当たる部分としてサントリーニ島、ティラシア島、アスプロニシ島が、中央部にネア・カメニ島及びパレア・カメニ島が海面上に存在する。」といふものですが、このカルデラが、ヤップ州と総称される南太平洋の島々によつて構成されるカルデラに全く同じ地形と地勢を海上に表してゐるので、比較をしてもらひたい。物事の順序は逆で、島々がカルデラを創つたのではなく、カルデラが島々を創つたわけですが。



私がこの二つの地図を比較して思ふことまたは私の知るところは、次の通りです：

(1) 二つのカルデラを囲む島々の住民は、島の上にも活火山のあることから当然に、このカルデラも、従ひカルデラによつて生まれた豊かな漁場も火山のお陰だといふことをよく知つてゐた。従ひ、

(2) 火山は、私たちにとつてとても有難い自然であり、恵みをもたらす山であつた。

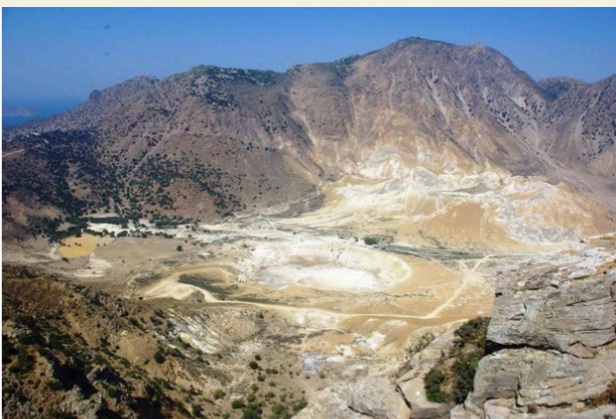
(3) この山は、既述の通り、峰凸とカルデラ凹とで構成されてゐた。これで一對のひとまとまりである。これを日本語でコト・タマと呼ぶことができる。サントリーニ・カルデラの島々でなんと呼ばれてゐるかは知らないが、私たち日本人にとつては、天降る地形の形象がかうであることは、これらの海域を問はぬ火山によつて生成されたカルデラ島嶼の住民のことを思へば、よく理解することができる。

(4) カルデラを巡つて円環をなすこれらの島々で、これも当然に一つの緩やかな島嶼ネットワークの共同体を形成してゐた。そして、今もさうしてゐる。

(5) このやうなカルデラを含む島嶼ネットワーク国家の一つである天津国から、すめら・ミコトは、複数の国津国の有力な氏族を率いて進発し、小笠原諸島を北上し、日本列島の房総半島以下太平洋沿岸部に到着した。

(6) この時すでに、エーゲ海の海の民は混血して、すめら・ミコトの国の中でその海の民と一つの民族になつてゐた。

(7) 話が前後しますが、このすめら・ミコトの国が他の島を傘下に置く時には、必ず瓊瓊杵尊と呼ばれる使者が派遣されて、火山とカルデラのある地に降り立った。これは無人の地か有人の地かに関係なく、そこにカルデラがあることが必要でカルデラのある凸凹の地に降り立った、即ち今の言葉でいへば開拓にあつたといふのは何故あらうか。今エーゲ海の他の島をネットで検索すると、ニシロス島といふ島で、次のやうなカルデラと土器の写真をもとの写真として見ることができます。遙かかなたのエーゲ海のカルデラ島とはいへ、私たちと同じ地形と類似の製作物である土器を実際に見ることができる。



ニキア村から見たクレター。絶景でした！ニキアはとても可愛らしい村で、散歩やカフェ休憩にもおすすめ。村の様子は今度またご紹介する予定です。



ニキア村の入り口にはギリシャ唯一の「火山博物館」もありますので、こちらもぜひ行ってみてください。

(8) といふことは、「スメラ・ミコトとスメミ祖 (おや) の歴史年表(v3)」にあるやうに、本当に本当の初代天皇ならぬ正式名称は、すめら・ミコトである海の民の統(す)めるミコト持ちとして (御言持ち且つ御事持ちとして) 国を建てて即位された其の90万年前の「天祖 (あまつみおや) の降跡 (ふりくだ) りましてより」とある歴史的事実にある「天祖 (あまつみおや)」とは、日本列島に至つた天津の世界の海の民の皇統、と正しくはいふべきにあらず、本居宣長のいふ通りに「天津日嗣 (あまつひつぎ)」 (『直毘靈』 (なほひのみたま) [註1]) といふべき此の道の「天津日嗣 (あまつひつぎ)」といふ言葉を借りて正しく道の名を呼び、その道の最初の「天祖 (あまつみおや)」は誰かと問へば、それは日本書紀にある通りの90万年前の天津祖であるといふこととなります。これが神武天皇に至る「今に一百七十九万二千四百七十余歳」の意味です。

[註1]

本居宣長は「皇統 (アマツヒツギ)」といふ表記です (『直毘靈 玉銚百首・同解』岩波文庫。昭和十四年十二月三十日第四刷発行。25ページ)。「天津日嗣 (あまつひつぎ)」の表記は論者によるものです。皇統といふのでは理解ができないが、やはり、アマツ・ヒツギと発音すれば意味が通じます。歴史そのままが音に音義として現れるからです。ここには高天原のことも天照大御神のことも皇位 (すめら・ミコト持ちといふミコト持ちとしての皇位の継承 (ツギ) のことも皆一語に収まつてゐる。私たちは漢字と漢語を使ふことによつて、やまところを忘れてしまふ。宣長は、このところを思ひ出せといつたのです。『直毘靈』を読むと、宣長がここで論じてゐるのは、私たちの心に今も生きてゐるミ・チ (道) のことでありますから、すめろぎの道 (ミ・チ) と呼ぶこともできます。この道 (ミ・チ) を論じて、宣長さんのいひたかつたことは、日本人として日本語で日本語に生きるあなた自身のところを思ひ出せと云ふことなのです。やまところを忘れて、外国語に堪能になるなどといふことはあり得ないのです。公教育で何よりも教へらるべきは、やまとことばです。さうしたら漢語と漢字の意味が理解でき、さうしたらどんな外国語も、その子供の興味と関心に応じて、楽々と理解できるようになります。何故なら語学の才能とか語学の能力ではなく、異文化コミュニケーションではなく、私たちがやまとことばに留まれば自づとコト・タマが働いてゐるからです。『直毘靈』を読むと、この自づとと云ふ言葉がよく出てきます。漢意で云ふなら自然と云ふ意味です。私たちの好きな漢意です。ここから先は語学教育の問題。先を急ぎます。

H 古代の天皇の寿命の長さは何を意味するのか

神武天皇といふ漢字による命名と暦法の関係について既述の「私の理解は、それまでスメラ・ミコトといふミコト持ちの名前であつた今でいふ天皇が初代を神武天皇とこのやうに漢意 (からごころ) で呼んだ時から海亀産卵歴を止めて四季にならつた一年を一年の単位としたのではないのかといふ理解です。」といふ私の理解について、少し言葉が足りなかつたので、補足説明をして、あなたの理解を得たい。

この一覧表を読む前提は、古事記と日本書紀はコト・タマの関係にあると云ふ事実、即ち天津の世界でカミであるものが大祓によつて国津の世界に天降つてミコト持ちになると云ふことの、天津の世界と云ふ超越論の世界に存在してゐるヒトの存在論的事実の話は古事記に (ドイツ哲学ならばdas sein・ザインの世界と云ふでせう)、時間

の中での歴史的事実としてのヒトの話は日本書紀に（同じく das dasein・ダーザインの世界と云ふでせう）書かれてみると云ふことです。

この天皇の名前と暦法の関係を示した一覧表を「歴代天皇・すめらみこと寿命表」と題して掲げます。海亀歴により、またミコト持ちの太古・古代の私たちの思想によって、同じ名前でも代々の襲名披露が理解できませんでしたし、過剰に見える寿命の長さの説明はつきましたので、物事を単純化して全体を眺めるために、海亀歴を1とし、四季歴を0とします。いつもの通り、表を掲げたあとに箇条書きで表から知ったことを列挙します。ダウンロードは：<https://docdro.id/pToQ3Kj> 表中にあるテキスト・ボックスがダウンロードによつて少しでもズレるかも知れませんが、その時には下記の表をみて修正して下さい。

2021/05/04 Eiya iwata						
歴代天皇・すめらみこと寿命表						
寿命表示は、海亀歴によるものを1で、四季歴のものを0で表す						
歴代数	天皇漢字名	天皇和名	古事記	日本書紀	備考1	備考2
0			0	1	ここに座標A→座標A'の瓊瓊杵尊がある筈。それが伊豆箱根の神山とカルデラに天降った瓊瓊杵尊（箱根神社）であり（関東・大倭日高見国）、時間を置いて九州の高千穂とその緯の地形・形象に天降った瓊瓊杵尊であす、関西では饒速日尊・にはやはひのみこと（河内の国）といふことになる。	饒速日尊の意味は、私（筆者）が大歳と古事記を讀んで得た当時の日本語の語感からいへば、次のやうな意味と理解することができる。：ニギハヤヒのミコトと云ふミコト持ちとしての使命は何かといへば、（1）ニギ：にぎにぎしく瓊瓊杵尊のやうに天降ると云ふ意味。ニニギのやうに二の繰り返しが無いのは、ニギ・ハヤで一つだからで、ニギニギしく速いと云ふ意味の形容がミコトに掛かつてあるから。ハヤと云ふ形容の語感は大歳第三段にある「落多支速川の瀬（おちたぎつハヤかわのせ）」とか（これは自然の形容）、「速開都比賣（ハヤあきつひめ）と云ふ神」（これは大歳によつてヒトに授けられたカミの名前）、それに同じく「速佐須良比賣（ハヤさすらひめ）と云ふ神」と云ふ名前を見ると、ハヤは川の流れの速いことをいふ。瀬を速みと歌に歌はれるやうにです。とすると、饒速日尊の意味は、はづくにしらす・すめらみこトが天孫降臨するための露払いをミコト持ちで（以ちて）川を高速の船を操つて移動する天照大御神の命を受けたミコト持ちであると云ふ意味になります。ここまで書いてきて今古事記の中つ巻神武天皇1東征（岩波文庫79ページ）を開きますと冒頭に「速吸門（はやすひのど）」といふ読みと文字がありますので、海の潮の流れの速いことをハヤと云ふことが判ります。それを陸に転ずれば、川の水の速いことの形容として使はと云ふこととなります。
1	神武天皇	はづくに・しらす・すめらみこと	1	1	座標A'→座標A' 45歳（四季歴）の時に神代の話（海亀歴）をしてゐる。当時の寿命は大体45歳と考へられてゐたのではないだろうか。海亀歴では記紀ともに120歳を超えてゐる。クニ（国）は名詞、くぬは動詞。	
2	敏達天皇		0	1		
3	安寧天皇		0	1		
4	懿德天皇		0	1		
5	孝昭天皇		1	1		
6	孝安天皇		1	1		
7	孝靈天皇		1	1		
8	孝元天皇		0	1		
9	開化天皇（父）		0	1		
10	崇神天皇（子）	はづくに・しらす・すめらみこと	1	1	座標A'→座標A' 神武天皇は海の民出身の、座標A'→座標A'における後者座標A'の最初の天皇・はづくにしらすすめらみことである。崇神天皇も同じ和名を戴いた海の民である物部氏の出自	

9	開化天皇 (父)		0	1		
10	崇神天皇 (子)	はつくに・しらす・すめらみこと	1	1	座標A'→座標A" 10崇神天皇から16仁徳天皇までは古事記・日本書紀ともに海亀歴。即ち出生・由緒は海の民といふことになる。 古事記の崇神天皇の条を読むと、確かにこの天皇が大甕古命 (おほひこのみこと) と息子の建沼河別 (たけぬかはわけ) 命を高志の国に派遣して建波邇安 (たけはにやす) 王を討伐した後に、日本の東西を統一したことが古事記に次のやうに書かれてある: 「相津 (今の福島県会津に往き遇ひき。 (略) ここをもちて各遣はさえし國の政 (まつりごと) を和平 (やは) して覆奏しき。ここに天の下太 (いた) く平らぎ、人民 (たみ) 富榮えき。ここに初めて男の弓端 (ゆはず) の調 (みつぎ) を賣らしたまひき。故、その御世を稱 (た) えて初國知らしし御眞木天皇 (みまきのすめらみこと) と謂ふ。」とある。この東征による征伐の全体的または部分的な原因は古事記を読むと古志の国にあるやうに見える。その解決が会津で図られた。	神武天皇は海の民出身の、座標A'→座標A"における後者座標A"の最初の天皇・はつくにしらすすめらみことである。崇神天皇も同じ和名を戴いた海の民である物部氏の出自の母親 (「物部氏の遠祖先 (とほつおや) 大瀬麻杵 (おほへそき) の女 (むすめ) から生まれた天皇である (日本書紀卷五冒頭)。
11	垂仁天皇		1	1		
12	景行天皇		1	1		
13	成務天皇		1	1		
14	仲哀天皇		1	1		
15	応神天皇		1	1		
16	仁徳天皇 (父)		1	1		天津世界から本格的に国津の世界の出来事に移行する分岐点が世界最大の墳墓仁徳天皇陵造営の意義であるといふことになる。
17	履中天皇 (子)		0	0	古事記・日本書紀ともに四季歴。即ち出生・由緒は地 (つち) の民である。但し、21雄略天皇と26継体天皇を除く。	といふことは、天津世界 (1, 1) から本格的に国津の世界の出来事 (0, 0) に移行する分岐点がこの父子で行われることは事前に仁徳天皇の生前に決められていたといふことである。
18	反正天皇		0	0		
19	允恭天皇		0	0		
20	安康天皇		0	0		
21	雄略天皇	おほ・はつせ・わかたけ・の・すめらみこと	1	0	21雄略天皇と26継体天皇の皇位継承に於いて古事記の記と日本書紀の記との等価交換によるのと同じ海亀歴と四季歴の等価交換による大祓がなされてある。等価交換は単に穢れを祓ふのみならず、穢れを祓ふとは何かであるが、その等価交換は余剰即ち富を産むからである。《ヤ》の音義の顕現するところ。この等価交換による余剰の産といふ宇宙の原理は、何事につけあるものです。従ひ、今の経済学でも同じです。ですから、大祓を基礎にして日本型の (18世紀の米穀相場の信用取引のあつた成熟して来た) 資本主義と同じ資本主義を二十一世紀に再度構築することが可能です。	雄略天皇は地 (つち) の民である。その残虐な所業を見ると海の民ではない。その和名から見て、地 (つち) の民出身の最初の天皇である。
22	清寧天皇		0	(0)		21雄略天皇と26継体天皇にあつては皇位継承に関し、その (0, 0) ならず (1, 0) または (0, 1) なるを以て何か異変があつたと考へることができる。また、土の民の雄略天皇を (1, 0) にし、海の民の継体天皇を (0, 1) にすることで等価交換をして大祓を執行したと理解する子ができる。
23	顕宗天皇		0	(0)		
24	仁賢天皇		-	(0)		
25	武烈天皇		-	(0)		
26	継体天皇		0	1		継体天皇は海の民である。越前・越の国または古志の国にあつて大陸との国際交易を行い (例: 三国漢・敦賀港) 莫大な富を蓄積して来たと考えられる。
27	安閑天皇		-	(0)		
28	宣化天皇		-	(0)	古事記のカラムに24賢仁天皇から始まる一の記号の意味は、寿命の記述がないまたは在位年数しか記録のない天皇であることを意味する。	(*) 23顯宗天皇の値はどちらも寿命が52であるので (0, 0) でも (1, 1) でも良い。ここでは四季歴に合はせて (0, 0) とした。
29	欽明天皇		-	(0)		
30	敏達天皇		-	(0)		
31	用明天皇		-	(0)	日本書紀のカラムに清寧天皇から始まる () の意味は、日本書紀に寿命の表示がないが、事績の初めと終りに記載の干支歴 (十二支歴) によつて計算され得る寿命のあることを意味する。	
32	崇峻天皇		-	(0)		
33	推古天皇		-	(0)		
N代目	(これ以降はこの四季歴のまま二十一世紀の今上陛下に至る)					

(1) 神武天皇以前のはつくにしらす・すめらみこと
 神武天皇、即ちはつくにしらすすめらみことは (1, 1) です。その後の (1, 1) に神武天皇と同じ歴の並びをしてゐる天皇を挙げます。天皇の名前の前の数字は何代目といふ数を意味してゐます。

- 3安寧天皇：しきつひこ・たまたみ・の・すめらみこと
- 10崇神天皇：みまきいりひこ・いにゑ・の・すめらみこと

といふことは、1神武天皇の直前の天皇、否、直前のすめらミコト、といふことは最後の、すめらミコトだけで呼ばれるすめらミコトの事績があるとしたら (それはあることでせう)、そのすめらミコトの寿命は (0, 1) となつてゐる筈です。なぜならば、10崇神天皇のすめらミコトの名前は、はつくに・しらす・すめらみこと、であつて、神武天皇のお名前と同じだからです。この二人は最初に座標A"に於いて関西の地で国を建てた天皇であり、はつくに・しらす・すめらみこと、であると云ふことを此の和名は意味してゐる。何故この二人が、はつくに・しらす・すめらみことと呼ばれて異なつた漢字を充てて別称されるのかについては後述します。要するに、この図の1と0のあり方をみて一目で判ることは、

図の1と0のあり方をみて一目で判ることは、

神代の巻の編者の苦心は、

(1) 座標A”に於いて、如何に海亀歴の暦法（海の民の暦法）を四季歴の暦法（地（つち）の民の暦法）と一つにするために円滑なる後者の暦法への移行を完成させるか。と同時に並行して、

(2) 暦法の継承性と、すめら・ミコト（ミコト持ち）と皇位の継承を一致させて、その存在（超越論の世界・無時間の世界）から歴史へ、即ち時間の中に存在する一即ち現存在する一ミコト持ちと云ふ（実はカミである）ヒトの世界へ時系列的な叙述への移行を円滑に完成させるか。そして、

(3) この移行を文字で、それも外国の文字即ち漢字で表記して叙述しなければならない。

と云ふところにあることが判ります。

この非常な苦勞は、勿論稗田阿礼や太安万侶や文章博士たちの努力によつて古事記と日本書紀の間の体系的な叙述上の相関が取られた。この体系的な叙述上の相関を読み取ることが難しいのは、宣長さんの云ふ通り、私たちが今の世のさかしらによつて文字を読まうとするからです。漢意を捨てよと云ふのは、このことです。

さて、この表を我がさかしらを捨てて眺めて一目判ることは、この表の作者は、神武「以前」と神武「以後」を二つに大きくわけて考へてゐることです。この基本構想の上に次のやうに個別のことを読み解くことにします。即ち、

A. 神武「以前」（0、1）

(1) もし既述の通りに瓊瓊杵尊と神武天皇を分けるならば、ここに座標A→座標A’の瓊瓊杵尊がゐる筈。それが伊豆箱根の神山とカルデラに天降つた瓊瓊杵尊（箱根神社）であり（関東・大倭日高見国）、時間を置いて九州の高千穂とその峰の地形・形象に天降つた瓊瓊杵尊であ李、関西では饒速日尊・にははやのみこと（河内の国）であるといふことになる。

(2) 饒速日尊の意味は、私が大祓と古事記を読んで得た太古・古代の日本語の語感からいへば、次のやうな意味と理解することができる。

ニギハヤヒのミコトと云ふミコト持ちとしての使命は何かといへば、

①ニギ：にぎにぎしく瓊瓊杵尊のやうに天降ると云ふ意味。ニニギのやうに二の繰り返しがないのは、ニギ・ハヤで一つだからで、ニギニギしく速いと云ふ意味の形容がミコトに掛かつてゐるから。

②ハヤと云ふ形容の語感は大祓の第三段にある「落多支速川の瀬（おちたぎつハヤ

かわのせ)」とか（これは自然の形容）、「速開都比賣（はやあきつひめ）と云ふ神」（これは大祓によつてヒトに授けられた超越論的に「既に」「最初から其処にゐる」存在としてのカミの名前）、それに同じく「速佐須良比賣（はやさすらひめ）と云ふ神」と云ふ名前を見ると、ハヤは川の流れの速いことをいふ。瀬を速みと歌に歌はれるやうにです。

③日とは、いふまでもなく、天照大御神です。とすると、

④饒速日の尊の意味は、はつくにしらす・すめらミコトが天孫降臨するための露払ひをミコト持ちて（以ちて）川を高速の船を操つて移動する天照大御神の命を受けた（「既に」「最初から其処にゐる」存在としてのカミたる）ミコト持ちであると云ふ意味になります。この船の名は一般名詞として天磐船（あめ・のいは・ふね）と呼ばれてゐる。アメとありますので、天津の世界から降つて来た船です。

⑤ここまで書いてきて今古事記の中つ巻神武天皇1東征（岩波文庫79ページ）を開きますと冒頭に「速吸門（はやすひのと）」といふ読みと文字がありますので、川のみならず海の潮の流れの速いことをもハヤと云ふことが判ります。それを陸に転ずれば、川の水の速いことの形容として使はと云ふことになる。しかし、

⑥一体岩である船がどうやつて川を高速で移動できるのだ？といふ疑問が湧きま

す。

問：船とは何か？

答：船といふ文字を去つて、フネの音義を尋ねれば良いのではないだろうか。フネといふ語形は名詞ですから、元々は動詞でフヌといふ動詞があつたに違ひない。と思ひ、今手元にある古語辞典を開いて、漢字の音読みであるフの音を除いて、やまとことばのフの音で始まる動詞を通覧すると、その概念・コトタマの意味は次のやうなものです。フヌといふ動詞の採録は、ない。

（あ）フは、風の吹くさまをいふ。

（い）ふぬ といふ動詞の意味は、何かを測定することをいふ。林甕臣著『日本語原学』の「第一目「ふー音」語脈の詞」（同書125ページ127ページ）に列挙されてゐる語例と用法の説明によれば、この測定は空間と時間の測定のみならず、ヒトである自分の持つ触感（主観）、自分といふヒトの見る対象の持つ触感（客観）、音の響き（例：笛フえ）、ものの上下左右の動きや変化、そしてこれらについて行くといふこと（これが論理と感覚の測定）といつた意味がある。私たちは、従ひ、これを行ふ場所の凹の乗り物をフネと呼び、これを操る者をフナ乗りと呼んでゐる。フナ乗りといひ、フネ乗りとはいはないのは、私たちは乗客としてはフネには乗るが、船を操るヒトにとつては、それは ふぬ といふ行為をする場所だからです。この場所を私たちは フナ と活用させて呼んで、その意味を割り当ててゐることが判ります。

（う）引き続き古語辞典を眺めれば、その意味にはまた、測定しながら進むことをいふ。この ふぬ といふ動詞は、用例をみれば、海のみならず川をゆく時にも ふぬ と使ふことができる。要するに潮の流れ、川の流れ、即ち水の流れがあれば、ふぬ と使ふことができる。昔の歌謡曲に”おーい、ふな方さんよ”という呼びか

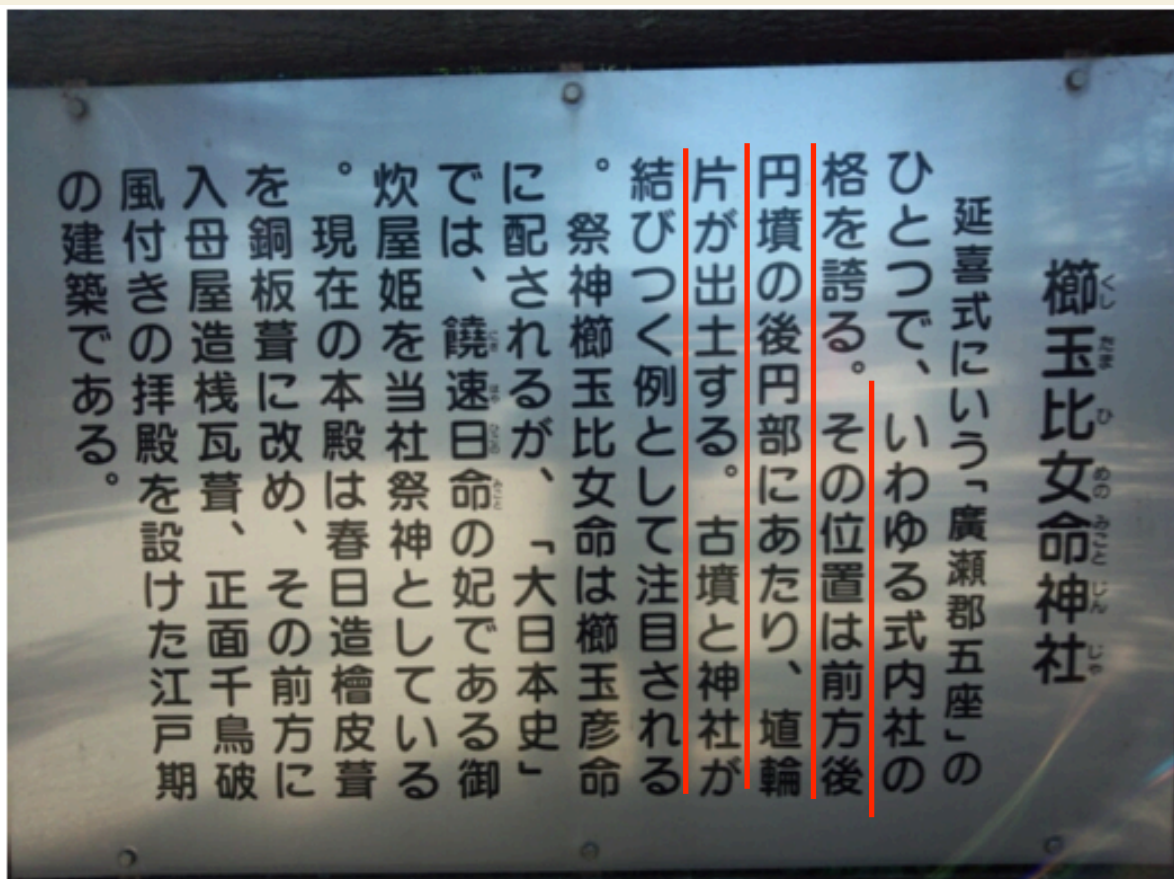
けのある歌があるので（三波春夫の『船方さん』：<https://www.youtube.com/watch?v=9V9Hjehbjc>）、フナ乗りのフナには船を上手にあやつるといふ意味のあることがわかる。フナ乗りは海の、フナ方は川の船頭さんといふことです。この歌の歌詞を読むと、川の船方さんも月の出汐を忘れてはならぬとありますので、饒速日の尊も月の満ち引きをみて船を出したのでせう。

問：一体岩である船がどうやって川を高速で移動できるのだ？といふ疑問が湧きます。

答：天鳥船が地文航法によつてカモメやカラス（八咫鳥のカラスです）を案内人として海を走つたやうに、川を天津のカミのミコト持ちが船で走つたら、その案内人はヤマ（山）なのではないでせうか。そして土地土地によりませうが、磐座といふしめ縄で結ばれた物証を見れば、それは岩山であり磐山であり、磐クラとクラの言葉のある以上、それは凹の形象（イメージ）のある案内人であり、そのやうな地形・地勢のある岩山の形象であります。さうして、磐座をシロとして取り出すことのできる岩山である。この文脈で今日本書紀巻三を読むと、神武天皇が東征して速吸之門（はやすひ・な・と）に至つた「時に、一人の漁人（あま）有りて、艇（をふね）に乗りて至れり。」とあり、艇といふフネを をふね と呼んでゐるので、これもやはりコト・タマにて、対のフネで めふね があるに違ひない。前の方で海亀の産卵に際しての大嘗祭の儀式の説明で、二艘で一對の形をなして相互の船体を注連縄で結び、またそれぞれの船体に注連縄を張つたことを述べて、その物証として信州安曇野の磐船の祭りの写真を載せましたが、この時フネにめをとのあることは気づきませんでした。ここまでの私の仮説は正しいと考へることが出来ます。それでは、を（男）フネとめ（女）フネの違ひは何かといへば、めフネが、フナ方さんの乗る川船も含み普通の凹の形象の船であるとすれば、をフネとは凹ではない、といふことは凸の形象を有するフネだといふことであれば、柱を備へた帆船であるといふことになります。やまとことばでいふ帆掛船・ほかけふねです。といふことは、帆掛の船を をふね と呼び、この帆を降ろして柱をもし畳むことができれば、その船を めふね と呼んだといふことも考へることが出来ます。折り紙を折るときに最初に二つの形の三角形を合はせて折るやうに、このやうな相互交換性のある二艘のフネを制作するといふ方が、私たち日本人の感覚にはしつくりと来ます。そして、もし二艘の船がさうでなければ、一緒の帆走に均衡が取れない。折り紙のへりをきちんと揃へなければ、不細工なものとなつて、美しい折り紙は完成しない。

⑦饒速日のミコトのfull nameは、櫛玉饒速日のミコトと云ふのですが、このカミをお祭りした神社が奈良県高市郡飛鳥村にある（<https://ja.wikipedia.org/wiki/櫛玉命神社>）。そして、この神社の立つ位置は「前方後円墳の後円部にあたり、埴輪片が出土する」と神社境内にある掲示板に書かれてゐますので（<https://ameblo.jp/kazanushi/entry-12136264395.html>）、このいはば天磐船を操つたミコト持ちは、

古墳を造成する文化との融合地点に立つ天津の世界から派遣された天津神のミコト持ちであることが判ります。この掲示板を掲げます。このミコト持ちが土着の豪族長髓彦（ながすねひこ）の妹である三炊屋媛（みかしきやひめ）との婚姻をなしたことが、この二つの世界、即ち天津の世界と土着の奈良の世界の融合（これが世に云ふ固有名詞としての大和・山門）であることが、この神社の立つてゐる場所で証明されてゐる。これが座標A'→座標A''で起きた、二つの暦法の統合に關する重要事であり、すめみまの道、天の日嗣の理解の上での分岐点・結節点です。これが古事記・日本書紀が仮想論理的にあれば（0、1）であつたらうということの、私の推論の意味です。これがあつたので、神武初代天皇・はつくにしらすすめらみことの即位（1、1）が有り得た。ここまで来ての私の率直に湧いて来た内心の声を文字にすれば、なあんだ、古事記と日本書紀に書いてある事実を確かめるためには日本全国の神社に直接足を運んで文字で書かれた資料と物証の突合をすればいいではないか。と云ふものです。こんな判りやすい話はありません。各神社には古文書もあるでせうから、これを含めた資料と物証が日本中にあると云ふことです。これが、日本学といふ学問の方法ではないのでせうか。



御祭神の『櫛玉』とはニギハヤヒの事であり、その御妃という事で『櫛玉姫』であります。

ニギハヤヒの降臨以前から居た土着の豪族、日下（ひのもと）將軍と言われた長髓彦（ながすねひこ）の妹にあたる御炊屋姫（みかしきやひめ）です！

なぜ和名で初代の天皇が二人もゐるのでせうか？この間に対する答は一時留保して置いて、上記3安寧天皇と10崇神天皇の問題に戻ります。

3安寧天皇から10崇神天皇までの数字を眺め、また10崇神天皇から16仁徳天皇（父）までの数字を眺め、更に17履中天皇（子）から33推古天皇までの数字を眺めると次のことがわかります。

B. 神武「以後」（1、1）

神武天皇「以後」を次のやうに三分する。

- (1) 段階1：神武天皇（1、1）以降は、（1、1）以前にある（0、1）を（1、1）へと移すための段階：2綏靖天皇から9開化天皇（父）までの期間
- (2) 段階2：（0、1）を（1、1）へと完全に移した段階：10崇神天皇（子）から16仁徳天皇（父）までの期間
- (3) 段階3：（1、1）を（0、0）へと完全に移した段階：17履中天皇（子）から33推古天皇までがの期間（神代の巻はここまで）これ移行今に至るまで天津日嗣の値は（0、0）、即ち四季歴であると思ひはれる。この間もし記紀の編纂者が（0、1）と考へたすめらミコトがあるとしたら、それは皇統の継承に何か問題の起きた時と考へられる。その例が、上記（3）の段階に二例あります。それが次の二人の天皇の場合です。

- ① 21雄略天皇（1、0）
- ② 26継体天皇（0、1）

（1、0）といふ組み合わせは、21雄略天皇以前も以後もないので、これは非常に特殊な場合であつたと考へることができる。26継体天皇は越前の国（高志の国）の三国湊や敦賀の港を擁して莫大な富を蓄積してゐたと考へられますので、これは海の民のすめらミコトです。それが古事記では0、日本書紀では1となつてゐるのは不思議です。普通に考へると、古事記では1、日本書紀では0となる筈です。しかし雄略天皇が（1、0）といふことは、何を意味するのでせうか。

雄略天皇は地（つち）の民である。その残虐な所業を見ると海の民ではない。その和名・おお・はつせ・わかたけ・の・すめらみこと（『日本書紀』）から見て、地（つち）の民出身の最初の天皇である。と、私はさう考へる。わかたけ・若竹といふ名前の要素に海の民との継承がなされてゐる。とすると、21雄略天皇と26継体天皇にあつては皇位継承に関し、その（0、0）の連続性がならず（1、0）または（0、1）なるを以て何か異変があつたと考へることができるといふ此の異変は、また、地の民の雄略天皇を（1、0）にし、海の民の継体天皇を（0、1）にすることで等価

交換をして大祓を執行したと理解することができる。日本書紀を読んでも気が付きましたが、私たちの祖先は、文字を入れるに当たり文字に大祓をしたことは既述の通りですが、やはりこのこととこの意識は生きていて、単に事績のコトを文字にするのではなく、文字にすることが行為を伴ひ、行為を文字にむしろしてゐるわけですから、この時に祓をするのです。それが国家格の行為であれば大祓をする。既述の通り、古事記と日本書紀の名前の交換はその内容の実質の等価交換であり（古事記と日本書記の紀と記の文字の等価交換）、これは大祓によつて祓はれて、等価交換による富を産み出した。国家格の穢れが大祓に祓はれた。この文字と穢れと祓ひについての感覚は今も生きてゐる。日本書紀を読むと、すめらミコトが「皇太子、即天皇位（あまつひつぎしろしめ）す。皇后（きさき）を尊（たふと）びて皇太后（おほき先）と曰（まう）す。」（巻五。崇神天皇）とあり、また「皇后（きさき）を尊（たふと）びて皇太后（おほきさき）と曰（まう）す。」（巻四。懿徳（いとく）天皇）とありますので、皇太子が天皇に即する大嘗祭の際には同時に皇太子妃もまた大祓に祓はれて、文字では皇太后と書かれ、やまとことばではオホキサキと発音されてオホの音義が付加されて呼ばれたといふことです。従ひ、尊（たふと）ぶといふことは、今の私たちが言葉の上だけで尊敬を表明するといふのは別にもつと儀式を伴つた祭祀をその背景の行為として有してゐる言葉であるといふことになります。この儀式は今に至るまで続いてゐる。

（3）さて、このやうに文字と穢れと大祓の関係を考へてみると、同じことが、二人の天皇の穢れを大祓するために、この何らかの皇位継承の異変に対して執行されたと理解することが、（1、0）と（0、1）といふ等価交換を意味する数字の関係から推測することができます。この神代の巻を叙述し編纂してゐる文部の官は、既に起きた過去のことを知つた上で書いてゐますから、このやうな叙述も出来るといふことになります。この文字と穢れとお祓ひの論理と感覚は私たちにも依然として生きてゐて、外国からの穢れを祓ふといふ意識の働く場合には、カタカナで表記をするといふことをしてゐます。これでは、その言葉の意味は本質的には私たちのものにはなりませんので、カタカナにして和訳しないといふことの一長一短はありますが、しかし、これによつて我が身の穢れを祓つてゐることは事実です。これについては、「5.18 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか」のところで後述します。

（4）21雄略天皇（1、0）と26継体天皇（0、1）の皇位継承に於いて古事紀の紀と日本書記の記との等価交換によるのと同じ海亀歴と四季歴の等価交換による大祓がなされてゐる。等価交換は単に穢れを祓ふのみならず、穢れを祓ふとは何かであるが、その等価交換は余剰即ち富を産むからである。千木高知りて《ヤ》の音義の顕現するところです。この等価交換による余剰の産といふ宇宙の原理は、何事につけあるものです。従ひ、今の経済学でも同じです。ですから、大祓を基礎にして日本型

の、18世紀の米穀相場の信用取引のあつた成熟してゐた資本主義と同じ資本主義を二十一世紀に再度構築することが、このことによつて可能です。

(5) 話が前後しますが、上記段階1と段階2の(0、1)から(1、1)への完全なる移行、即ち海亀歴を表立つて公にすることはやめて、四季歴一本で行くことを決定したのが、16仁徳天皇(父)と17履中天皇の間でのことだといふことが明らかです。それまでも古墳はあつたわけですが、仁徳天皇陵の規模の大きさとあの様式は、この大きな変革の記念碑なのです。これは造営の年数のかかることを考慮に入れば、仁徳天皇と履中天皇の間で生前に話し合はれて公に決定されてゐたことに相違ない。普通の平俗ないひ方で今いへば、ここからは地(つち)の民の中でも大和の国が、二つの暦法の統合を果たして、日本の国を治めるぞ、といふことではないでせうか。これに比べれば、明治維新のあと明治政府の断行した太陰暦から太陽暦への突然の変更は、余りに短慮です。私は明治政府の四つの大罪の第一にこれを挙げます。しかし欧米による侵略を防ぐにもつと時間を掛けた暫定的な政策を最初に講じておいて(これが段階1と段階2)、次の段階3で移行を完成させるか。しかし、他の文明圏をみても、イスラム教諸国をはじめ、それぞれの暦法を使つて欧米のキリスト教歴の採用をしてゐない国はいくつもあるわけですから、私たちもそれで十分にやつてこられて、その方が国民の大きな混乱と苦しみはなかつた筈です。これは、私は明治政府の犯した大きな失政であり失敗であると断言したい。公武合体政策といふ応急措置の政策の有効期限が切れた今や、天皇陛下の京都への遷都と此の太陰暦への復帰は一式です。これで、根本的に今の日本の国を根底から変へることができます。否、黙つてゐても、自然に、宣長さん風にいへば自づと、良い方に変革されます。何故なら、これは日本の国体(三次元)と国柄(二次元)の復活であり蘇生であるからです。これに日本の紀元歴の復活を入れることは後述する「虚空見(そらみ)つ日本(やまと)の国」の名前の解釈をお読み戴ければ無理のない自然の感情がそこにあることがお解り戴けることとせう。この三つを以て一式と致します。

(6) なぜ和名で初代の天皇はつくにしらすすめらみことが、1神武天皇と10崇神天皇の二人もゐるのでせうか?といふ問に答へたい。この一覧表を見ますと、10崇神天皇以降は皆(1、1)でありますから、これで暦法の統一がなされたので、この事跡の国家にとつての重要性は、神武天皇の建国の匹敵するといふ認識のよるものと考へることができます。

さうすると、神武天皇の事績：大和の国を建国したこと。その始まりは饒速日のミコトの天孫降臨に始まり(これが巻三の冒頭の45歳の時にこれまでの天津神の事績の話をするところから始まり)、巻三の最後で再び饒速日のミコトの名前を出して、最初と最後が照応してゐることに、神武天皇と饒速日のミコトの天孫降臨が神武天皇の大和での建国に本質的な重要性を持つてゐることを示してゐます。巻三の最後の箇所

から引用します：

「饒速日命（にぎはやひのみこと）、天磐船（あめのいはふね）に乗りて、太虚（おほぞら）を翔行（めぐりゆ）きて、是（こ）の郷（くに）を睨（おせ）りて降（あまくだ）りたまふに及至りて、故（かれ）、因（よ）りて目（なづ）けて、「虚空見（そらみ）つ日本（やまと）の国」と曰（い）ふ。」（岩波文庫『日本書紀一』244ページ）

「太虚（おほぞら）を翔行（めぐりゆ）きて」と副詞的に天降りを形容したのは、「虚空見（そらみ）つ日本（やまと）の国」と書きたいためであつて、古事記・日本書紀を読んで解することは、今の人には馬鹿馬鹿しいこぢつけだと思ふところですが、地名の語源を寿ぐために、私たちはこのやうな言葉による祝ひごとをして来たといふことです。今に至るまで、この土地の語源を言葉にして其の土地の場所を寿ぐことを、私たちはしてゐます。命名の心の順序は、実は逆なのです。その土地の名前がさうだから、そのやうな土地であるといふのではなく、その名前をつければ、その土地はそのやうなめでたい土地になるといふ心なのです。土地を上位概念で場所と言つてもよいし、場所の下位概念で国といつても良い。

解釈に戻ると、「太虚（おほぞら）を翔行（めぐりゆ）きて」の「翔行（めぐりゆ）きて」の解釈は不要でせう。それでは何故「太虚（おほぞら）」と文字と書いたかといひますと、太の文字を当てるのは、大祓詞第二段を読みといたところから従ひ（「天津祝詞の太祝詞事を宣（の）れ」、またその他の文章でも此の太といふ文字を使ふことは、そこは地（つち）民の世界であり、その土の上にある国津の世界での用字法では、山の下、山の麓（ふもと）を表し、そこには神社・ヤシロの立つてゐることを表す（「大祓詞第一段「下津磐根（したついはね）に宮柱太敷（ふとしき）立て」）。虚とは、何もないことですから、形象としてはここでも凹の形象を示してゐます。そして、順序は逆で、おほぞらといふやまとことばに、大祓ひとの論理と感情に基づいた私たちの漢字の用字法にしたがつて、此の漢字の二文字を当てた。といふ順序が、理解の順序です。

そして、「太虚（おほぞら）」といふ文字を目にすれば、そらみつ大和国といふ定型句も連想されたし、今でもされることです。この土の民の国の上での建国に果たした瓊瓊杵尊の事績の最後に立てた「虚空見（そらみ）つ日本（やまと）の国」といふ大和の国の形容は、大祓第三段を思ひ出させます。

「荒塩（あらしほ）の塩の八百道（やほぢ）の八塩道（やしほぢ）の八百会（やほあひ）に坐（ま）す

速開都比賣（はやあきつひめ）と云ふ神（かみ）持（もち）可可（かか）呑みてむ」

これは日本の山の多い、しかも急峻な傾斜であるそこを急流で流れる川が海の河口にまで一気に降り来て、そこで観る大空と豊かな漁場のある潮の交差した「八百会（やほあひ）」の場所を連想させるのです。目の前には何もない。大空と大海原があるだけだ。そこに女性のカミがみ坐（ま）しましたらば、それはやはりアキツ・ヒメと呼ばれる。アキツとは開都であり、空き津であり、大空を眼前にする津、即ち港・湊のことです。そして、この比賣と云ふ神は大祓に祓われたコトをミコト持ちするカミでありミコトでありますから、神武天皇が45歳の時に語り始め、高天原から天降る瓊杵尊で始まり瓊杵尊で終はる此の神武天皇の話であり談であるこの間のことは皆、「虚空見（そらみ）つ日本（やまと）の国」と命名され、さう呼ばれることで、この場所は大祓に祓われ、文字の上でも歴史の事実の上でも大祓されたのだ、それが日本書紀に書かれてある大和国の始まりの歴史だといふことを知ることが、とても私たちにとっては大切なことではないでせうか。このやうに思へば、速開都比賣（はやあきつひめ）の名前を漢字で開都（あきつ）と当てた個人の心が知られやうと云ふものです。都を開くと云ふこと、または開かれた空間に面して都があると云ふこと、そこにゐるミコト持ち速開都比賣であるカミと呼ばれる女性（ヒト）であります。

（7）何故10崇神天皇は、はつくにしらす・すめらみこと と呼ばれるのかといふ問題に答へたい。

このやまとことばでの命名は、やはり神武天皇の場合と同じく、国の統一といふことがなされたといふ意味です。これを、1神武天皇の偉業が座標A'→座標A''での統一とすると、10崇神天皇の国の統一は、以下の古事記の引用による座標A''→座標A'''の座標の転移の中での事績だといふことになります。これが、はつくにしらす・すめらぎの事績であるならば、当然にまた瓊杵尊の天孫降臨があることになります。この役割を担ったのが、大毘古命（おほひこのみこと）と息子の建沼河別（たけぬなかはわけ）命の父子だといふことになります。もはや、瓊杵尊といふ名前が書かれてみませんので、機能だけが残り、名前は失はれたと理解することができる。即ち、10崇神天皇の時代から、もはや天津の世界から叙述は全く国津の世界の、それも大和の国の平定の話になつたといふことです。「歴代天皇・すめらみこと寿命表」に明らかな、9開化天皇（0、1）と10崇神天皇（1、1）の間に引かれて以後同じ（1、1）で続く系統譜が、そのことを示してゐます。

古事記の10崇神天皇の条を読むと、確かにこの天皇が大毘古命（おほひこのみこと）と息子の建沼河別（たけぬなかはわけ）命を高志の国に派遣して建波邇安（たけはにやす）王を討伐した後に、日本の東西を統一したことが古事記に次のやうに書かれてゐるます：

この父子は「相津（今の福島県会津）に往き遇ひき。（略）ここをもちて各遣はさえし國の政（まつりごと）を和平（やは）して覆奏しき。ここに天の下太（いた）く平

らぎ、人民（たみ）富榮えき。ここに初めて男の弓端（ゆはず）の調（みつぎ）を貢らしめたまひき。故、その御世を稱（た）えて初國知らしし御眞木天皇（みまきのすめらみこと）と謂ふ。」とある。

この東征による征伐の、従ひ1神武天皇の治めた筈の国内での反乱の全体的または部分的な原因は、古事記を読むと、古志の国（今の越前の国・福井県）にあるやうに見える。その解決が会津で図られた。これが外観としての、古事記の世界から眺めると見える東西の統一の大まかな姿です。この詳細なことの次第と此の天皇の事績については、いふまでもなく歴史書である日本書紀に書いてあります。この一層の吟味は後日の課題としたい。

しかし、かうしてみますと、古事記の素晴らしさは、歴史書である日本書紀の詳細な天皇の事績の全体を一つかみに理解することができるといふことにあることが判ります。いはば、この裏書きされた（endorsement・保障）超越論の上に、日本書紀があるといふ二つの関係です。古事記を日本書紀の註釈書だといふには憚られますが、しかし、一見二義的なものこそ、その関係する当の相手のものの本質である。といふ此の原理は、既にこれまでこの論考の副題にある通りにtopologyで読むことのできる縄文紀元の問題の解法として提示して来たことです。

（8）4懿徳天皇と5孝昭天皇の関係も（0、1）と（1、1）の関係ですから、9開化天皇と10崇神天皇の同じ関係に類似することがあるに違いありません。これは後日の課題として、次の章に進みます。

（9）海亀歴といふ海の民の暦法に対して、陸地の地（つち）の民の暦法を四季歴と呼びならはして来ましたが、この四季を如何様な漢語の概念を持つ漢字による暦法で解釈し表記しようが、それは自然の四季の循環といふ働き以上のものにはなりません。この暦法といふことについても、私は本居宣長の考へに従ひます。これは私たちの今でも生活の実感を少しも離れない。それ故に当然のことながら、干支歴（十二支歴）を国の中に入れるに当たっては、大祓をした筈ですから、今その詳細を私は知りませんが、これもまた当然に、時間をズラしたことでせう。これが、私たちの超越論です。賀茂真淵と本居宣長の、国学の超越論については後述します。

さて、10崇神天皇が、はつくにしらす・すめらミコトと呼ばれてゐる理由を受けて、次のやうに「はつくにしらす・すめらミコト」の東西のはつくにしらすコトをまとめたい。

（1）第一の邇邇藝尊→はつくにしらす・すめらミコトの北征：座標A→座標A'の変形（ズラし）：島嶼ネットワーク国家から東国三社の場所への天降り（上陸）：これ



は伊豆箱根の活火山の活発な時の天降りなので、早ければ3000年前。勿論これ以前に関東以北に国々があつた。

(2) 第二の邇邇藝尊→はつくにしらす・すめらミコトの西征：座標A`→座標A``の変形（ズラシ）：大倭日高見国から九州の高千穂の凹の形象への天降り（上陸）：これは活火山の噴火の収まった後なので（6300年前に活動は終息 [註3]）、いづれにせよ高千穂の凹の形象への天降りは上記（1）の3000年前以降の時間のどこかで行はれた。

(3) 第三の邇邇藝尊→はつくにしらす・すめらミコトの東征：座標A``→座標A``の変形（ズラシ）：はつくにしらす・すめらミコトは、普通にいはれてゐる神武天皇のこと。日本書紀卷第三冒頭にある神武初代天皇のいふ「我が天祖彦火瓊瓊杵尊」の天降りは、私の論ずる文脈では第一の邇邇藝尊。さうでなければ「天祖（あまつおや）の降跡（あまくだ）りましてより以遠（このかた）」90万年といふ説明がつかない。

(4) 第四の瓊瓊杵尊（相当の役割を演じた父子）→はつくにしらす・すめらミコトの東征：座標A'''→座標A''''：10崇神天皇としての、はつくにしらす・すめらミコト。第四の瓊瓊杵尊はもはや名前の通りににぎにぎしい感じのしない瓊瓊杵尊役といふべき父子で一役のミコトである。しかし、父子であるといふことに、父（0、1）・息子（1、1）といふ意義がある。

ここまできて、私たちの太古からのトポロジー（位相幾何学—これは縄文土器と土偶の関係の理解にまで及ぶ論理ですが此れ）を思へば、即ちコト・タマのことを思へば、上で私の述べた「この暦法といふことについても、私は本居宣長の考へに従ひます。これは私たちの今でも生活の実感を少しも離れない。それ故に当然のことながら、干支歴（十二支歴）を国の中に入れるに当たっては、大祓をした筈ですから、今その詳細を私は知りませんが、これもまた当然に、時間をズラしたことでせう。これが、私たちの超越論です。」といふ言葉の意味をもう少し小林秀雄著『本居宣長 補記』より宣長による此の事実への言及とこれに対する此の大変優れた批評家の鋭敏なる、しかし言はれて見れば至極あたり前のことを、次の章に入る前に思ひだすことは大切なことだと思ひます。古事記と日本書紀といふコト・タマの間に隙間のあることズレのあることを宣長は次のやうに言つてゐる。私は宣長が『真歴考』に考察してゐる私たちの自然の暦法を私の言葉で四季歴と読んでゐるに過ぎません。この呼び名は、あなたの暦法である春夏秋冬の歴の実感を離れない筈です。さうして、何故私たちは、やまとことばで、歴を こ・読み と名付けたのかを考へてほしいのです。この漢字とやまとことばの間にあるズレが、そのまま漢字を大祓する理由になつてゐる。

「——附記して置くが、言ふまでもなく「古事記」本文には、紀年は記されてゐない。たゞ、舊印本によつては、崇神天皇の御世以後には、紀年の細註がある。ところが、その支干年月は、皆「書紀」の記載とは異なる。下巻の末尾に至つて合致してゐるに過ぎない。宣長の見解（古事記傳、二十三之卷）によれば、「世ノ人は、書紀に合ハざるを以て、此レを取らざるを、己レは、彼ノ紀と合ハざるが、返りて心にくゝ思はるゝかし」と言ふ。」（同書36ページ）

といふ小林秀雄の着眼した引用に私の引いた傍線に、宣長のこれも鋭い記紀の間のズレに関する読みと認識があるのです。この認識を宣長は「己レは、彼ノ紀と合ハざるが、返りて心にくゝ思はるゝかし」と言つた。「(7) 何故10崇神天皇は、はつくにしらす・すめらみこと と呼ばれるのかといふ問題に答へたい。」に返つてお読み下さい。その理由の説明があります。さて、この先にある小林秀雄による宣長の『真歴考』に関する批評と引用を続けます。

「三韓を通じ、唐国の暦法を得て此の方、その完備した體裁に壓倒されて千餘年、歴と言へば、この形式の歴しか念頭になく、まして、上代のわが國には、わが國の暦があつたかどうかといふやうな事に、思ひ及ぶ学者は、古学を口にしながら、一人もみながつた。宣長は、暦といふ文字の渡来を、凡そ文字といふものさへ知らぬ人々が、「こよみ」といふ訓読によつて受け止めたといふ大事実こそ、わが國にはわが國固有の暦の觀念のあつた事の疑ひやうのない證據であると見た。「こよみ」といふ倭言葉については、——「萬葉などに、け長くとおほくよめるも、來經(きへ)長くにて、そのほどの久しきをいふ古言(ふるごと)、又日を數(カゾ)へゆく由(ヨシ)の名なり」と言ふ。

「真歴考」の冒頭に戻つてよく讀んでみよう、——「あらたまの年の來經(キへ)ゆき、かへらひめぐらふありさまは、はじめ終(ヲワリ)のきははなけれど、大穴牟遲少名毘古那(オホナムヂスクナビコナ)の神代より、天(ソラ)のけしきも、ほのかにかすみの立(タチ)きらひて、和(ノド)けさのきざしそめ、柳などももえはじめ、鶯などもなきそめて、くさぐさの物の新(アラタ)まりはじまる比をなむ、はじめとはさだめたりける」——研究は、暦を通じて、先づ、古歌の文句から、始められるのである。」(同書38ページ)

宣長のいつてゐることは何も難しいことではない、私たちは春の初めを何によつて知るか。庭先にあの花が蕾をもつたとか、散歩をしてゐたら通りかかつた家の庭の木の木の葉の色が濃くなつたとか、公園のあそこにあるいつもの菫(すみれ)が咲き始めたとか、このやうな指標(ここでまたしても指標・indexであるが此れ)によつて私たちは春の到来を知り、同様に梅雨の後の夏を知り、秋を知り、冬の初めを初雪で確信するのである。四季それぞれの終はりについても同様の指標がある。だから、宣長はほのかに立つ霞や萌はじむ柳やなき初める鶯やらを指標として挙げた次に古歌の吟味に入るのです。

コ・ヨミとは何かと云ふ問に今答へると、やはりこれはコ・読みなのであり、コなる何かを読むことが、私たちのコヨミであり、漢字で当てた暦である。順序は此の順序であつて、逆ではない。しかし、私たちはいつも、今に至るまでこの逆の、倒錯した世界に生きてゐる。これが果たして、やまとのくに であらうか?と私も疑ふのです。

コガク(来る)といふ動詞の名詞であれば、または命令形であれば、このコの意味は

時間の過去と未来と願望が含まれてゐることになります。いや、コに過去の意味はない、それならキではないかという人もゐるかもしれない。さうおもつて此のクといふ動詞の音義を尋ねて見ると、やはり今も私たちは、来（コ）し方行く末といつて生活をしてゐるのですから、やはりコといふ名詞には動詞由来の過去の意味が含まれてゐる。未来への願望がコと発音されることは、あなたにも理解することがができる筈です。一音一義。これが私たちの生活であり、日本語の世界である。付言すれば、願望の表現の文法的形式（動詞の活用と語法の形態）と命令の形式とは、私の知る限り、このやうに日本語が同じであり、私の知る英語もドイツ語も同じであるからには、間違ひなく古今東西万国の言語に共通の文法的なことなのだと私は考へる。命ずることは願ひであり、願ひは命ずることである。この願ひが強ければ祈りの言葉となりますが、形式は変はらない。ここから先の議論は、接続法（Konjunktiv・conjunctive）と云ふ現実と非現実の（これは西洋文法用語）、しかし私たちにとつては現代と神代の、またこの世とあの世の、此岸と彼岸の接続の話、即ち語法・modeと云ふ文法學の話となります。これを二進数のブール代数と云ふコンピュータの基礎の数学に拠る論理演算では論理積（conjunction）と呼んでゐる。算術演算では掛け算（multiplication）のことで、あなたにはお馴染みの計算です。

さて、国学者が如何に、自然のコトにズレを知るまたはヒトの意志を以てズラすと云ふ太古・古代以来の私たちの超越論を、記紀万葉に漢字の文字を通じて表記されてゐるにも拘らず正しく理解してゐて、認識といふべき深い理解に至つてゐたかを、著名な次の二人の国学者の例を挙げて、あなたに伝えたい。ズレとは位相の転換の其の本質的な変化点に着眼すると云ふことです。

花は盛りを、月は隈なきをのみ見るものかは（徒然草第百三十七段）

静止した面のみを見ることを私たちは風流と呼び、その縁辺・目（海ガメの甲羅のメ・目です）即ち変化を読むことを、風流から狂ふので、風狂とよびならはし、そのやうな人間を畸人と呼んで尊び、古来大切にきて来たのではないでせうか。安部公房はこの旅を周辺飛行と呼んだ。

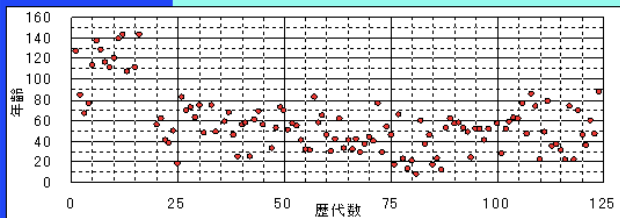
[附録]

上記に、ズレとは位相の転換の其の本質的な変化点に着眼することだといひましたが、私の同じ変化点に関する着眼を統計学的に処理をしたことによつて示してゐる資料をネット上に見つけましたので、以下に示します。ウェブサイトは：<http://q-tech.cafe.coocan.jp>

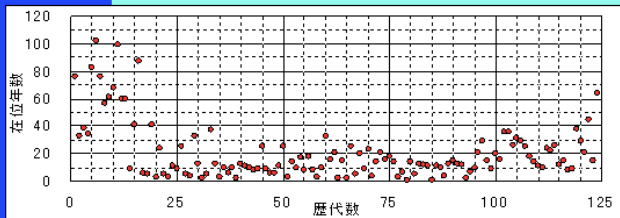
この方は地質コンサルタントで、三重県の方ですから土地柄このやうなことに深い関心をお持ちだつたのでせう、専門の分野、即ち「岩盤を主体としたコンサルタント業務」および「トンネル施工時の各種問題検討、解析」に使用してゐるデータ（数字）を統計的に処理することで、神代と古代の天皇の寿命に関する謎（とご本人は呼んでゐる）を挙げてゐます。これは、私の作成した海亀歴1・四季歴（宣長のいふ真歴）

0といふ「歴代天皇・すめらみこと寿命表」の変化点の現れ方に一致してゐます。

古代天皇の年齢が高く、在位期間も長いのはどうしてでしょうか？



横軸に歴代数（天皇が何代目か）を示し、
縦軸に天皇の寿命を「年齢」として示す

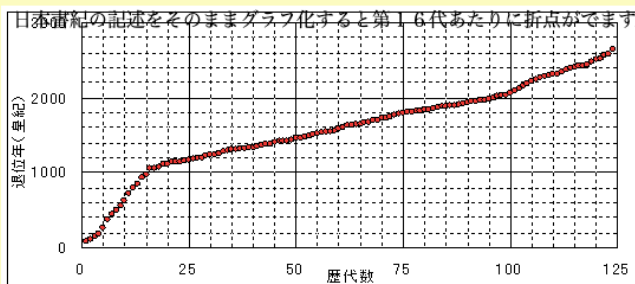


横軸に歴代数（天皇が何代目か）を示し、
縦軸に天皇の在位年数を示す

これは散布図と呼ばれる図で、これによつて、左上の図では歴代天皇と年齢のバラつきと偏在を区別して知ることができ、右上の図では歴代天皇と在位年数のバラつきと偏在を区別して知ることができる。

そして、歴代の天皇の皇位継承の連続性の連続性を見るために、横軸に歴代数、縦軸に退位年を示してグラフ化する。退位年は皇位の連続性を知るために当然に皇紀を使用してゐます。

謎解きその1



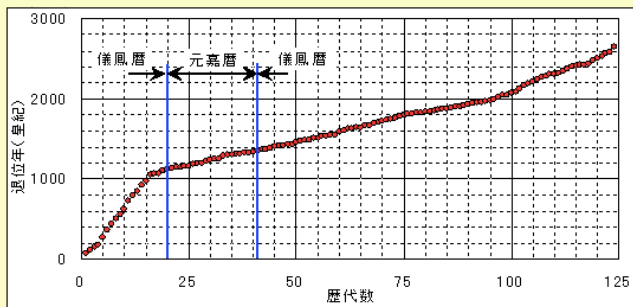
- ◎統計学的に極めて不自然です。
- ◎2660年に及ぶ歴史の流れの中でも特異な現象であり不自然です。

これは、「日本書紀の記述をそのままグラフ化」したものです。このグラフの製作者阿部求さんといふ方が、このグラフを作成する前に作成した「日本書紀の記述をそのまま」抜き出した基礎資料が次のURLに掲載されてゐる：<http://q-tech.cafe.coocan.jp/tennoh.html>

上のグラフで指摘されてゐる「第16代あたりに折点ができます」とある通りの変化点を、私の「歴代天皇・すめらみこと寿命表」では、次の通り、16仁徳天皇と17履中天皇の皇位継承にあたり(1, 1) → (0, 0)への本質的な変化点、即ち何かの転換点として示されてゐる。その記念碑が仁徳天皇陵であることは本文で論じた通り。

16	仁徳天皇 (父)	1	1
17	履中天皇 (子)	0	0

謎解きその2



- 神武天皇～安康天皇までは「儀風暦」が使われています。
- 雄略天皇～持統天皇までは「元嘉暦」が使われています。
- 儀風暦は「日本書紀」編纂時に使われていた新しい暦です。
- 雄略天皇以降については記録が文書で残っていたものと推定されます。
- 口伝部分について儀風暦を当てはめたのではないのでしょうか。
- 第20代と第21代の間には何か謎がありそうです。

この地質コンサルタントの指摘のうち「第20代と第21代の間には何か謎がありそうです」といふ指摘は、私の表によれば、次の表部分に当たります。

20	安康天皇		0	0
21	雄略天皇	おほ・はつせ・わか たけ・の・すめらみ こと	1	0

これは、21雄略天皇のすめらみことの名前が「おほ・はつせ・わかたけ・の・すめらみこと」であるかといふ私の本文での分析に一致してゐる。この異変は(0, 0) → (1, 0)といふ現れ方になって出てゐます。20安康天皇は暗殺された天皇ですので、尚更この(0, 0) → (1, 0)の皇位継承には問題があつたと考へねばなりません。これも本文で述べたところですが、この暦法の(1, 0)は、26継体天皇の(0, 1)に関係してゐるに相違ない。いづれの変化点も、大祓といふトポロジー(等価交換)の観点から考察すべきものと私は考へてゐることは本文に既述の通りです。義風歴と元嘉暦も、このやうに考へて来ますと、大祓の名目のために便宜上利用されたものであつて、これら大陸の暦法を以て四季歴を説明することはできません。これらの暦法は、漢字の輸入といふに同じことですから、既述の通り、やはり日本の国を大祓に祓ふために位相を移されたといふこと、即ち平俗にいへばズラしを施されたと考へます。

話は余談ですが、私たちが神社に参拝して、二拍する時に、両手を一度合はせて少し一度ズラしますが、これもお祓をしてゐるのだといふことが、これで此処でも判ります。これを柏手と呼んで、柏の葉に譬(たと)へてゐることの意味もこれで説明がつくでせう。また、何故二拍手なのかについては「L 大祓に書かれてゐる場所はどのやうな場所であるか」で、一体大祓がどのやうに行はれてゐるのかを論ずるところで論じたい。

さて、同氏による謎解きの3です。

謎解きその3

1年2倍暦の存在

- 「崇神天皇」から「雄略天皇」までの古代天皇の年齢を「古事記」、「日本書紀」から拾ってみると右表のようになります。
- 多くの天皇が100歳以上の長寿を全うしており、150歳以上の天皇もおられます。
- 一般的に古代ほど平均寿命が短かっただけで、生物学的にも不自然です。
- 景行、垂仁、成務の各天皇が軒並み庚午年に薨去しているのも、不自然です。
- 表にはありませんが「武内宿禰」に至っては289歳という年齢すら出てきます。
- しかし、この超人的な寿命を見て「紀記」の信頼性を否定するのは性急です。
- 背景に巧妙なからくりが潜んでいるものと想われます。
- 三国志「魏志倭人伝」の記述が足りない部分に裴松之が注を付けたものが残っており、「魏略に曰く其の俗正歳四節を知らず但春耕秋収を計って年紀となす」という記事があります。

	古事記			日本書紀		
	崩年干支	西暦	年齢	崩年干支	西暦	年齢
崇神	戊寅年12月	318	188	辛卯年12月5日	BC30	120
垂仁		153	153	庚午年7月1日	70	140
景行			137	庚午年11月7日	130	106
成務	乙卯年3月15日	355	95	庚午年6月11日	190	107
仲哀	壬戌年6月11日	362	52	庚辰年2月6日	200	52
神功		100	100	己丑年4月17日	269	100
応神	甲午年9月9日	394	130	庚午年2月15日	310	110
仁徳	丁卯年8月15日	427	83	己亥年1月16日	399	
履中	壬申年1月3日	432	64	乙巳年3月15日	405	70
反正	丁丑年7月	437	60	庚戌年1月23日	410	
允恭	甲午年1月15日	454	78	癸巳年1月14日	453	
安康			56	丙申年8月9日	456	
雄略	己巳年8月9日	489	124	己未年8月7日	479	

- ◎当時の日本で「1年2倍暦」が採用されていたことを示しています。
- ◎「春耕～秋収」で1年、「秋収～春耕」で更に1年と数えていたのです。
- ◎1年2倍暦を普通の天文年に置き換えれば年代が引き延ばされてしまいます。
- ◎いつ頃まで1年2倍暦が使用されていたかが問題です。
- ◎別途検証しますが、第20代安康天皇までが1年2倍暦でした。
- ◎これは謎解きその2で示した暦の違いと一致します。
- ◎謎解きその1で示した折れ点は第16代あたりでしたが、第17、18、19代は兄弟相続であり、第20代は暗殺されています。
- ◎第20代までは年齢を半分にして考える必要があります。

以上の解析は、数字をもとにしてグラフ化した結果を読んだ統計学的に処理されたグラフを専門家の読んだものですが、これを、さて、人文科学の人間が一体どのやうに記紀の記述を理解すべきかを示したのが、結果として（順序は逆ですが）、私の「歴代天皇・すめらみこと寿命表」だといふことになります。文の学は学である以上、これも科学です。文とは何かといふことを証明するために、私はこの論考を書いてきたやうな気がします。文の及ぶ範囲は誠に広大無辺である。漢意（からごころ）で云ふ此の文なるものは、やまとことばでは、ここまで論じてくれば、コト・タマと呼んでも良いのではないかと思はれます。これは勿論日本人の理解した文といふ言葉と文字に関して得た概念（コト・タマ）です。多分、漢意の文とは、日本語を主体に考へれば、文といふ概念はコト・タマの部分集合でありませう。

I 国学の超越論：賀茂真淵と本居宣長の超越論

太古からの私たちの縄文紀元のmetaphysica・形而上学、または鶴亀哲学は、これまで散々言つて来ました通りに、西洋哲学用語を用ふれば、超越論なのです。超越論とは何かといへば、因果律、即ち原因と結果の連鎖でものを考へないと云ふ断固たる決心によつてなす論を超越論といふのです。何故断固たる決意が大事かといひますと、世の中は猫も杓子も、国家ならば上は裁判官から警察庁から刑事から下は企業の経営計画を立てる経営者からビジネスマンまで、これで思考せざる人士はなしと云ふ位に当たり前のことで、それは何故なら私たちは時間の中で生活してゐるからです。即ち、因果律と云ふ論理は時間の中での変化を原因と結果で説明する論理なのです。何故連鎖といふかと云ふと、いつも原因は結果になり、結果が次の原因にあり、その原因が次の次の結果を生みと云ふやうに時間に限りがないやうに何処まで行つても無限に続く連鎖であるもの、これを因果律と云ふのです。それではと云ふので、今度は過去に遡つてもまた同じで、何処まで行つても此の連鎖は、鉄道唱歌の線路みたいに続いてゐるのです。ところが、因果律以外の論理で生きようとすると、これが普段大変なことになつて周りの人間に理解されないといふことになるのです。わかる人にはわかるが、わからない人にはわからないといふ、それで上で敢へて「断固たる決心によつてなす論」と述べた次第です。ですから、超越論とは、古今東西因果律で思考しない全ての論理のことである。といふのが、その定義になります。

超越論の定義

超越論とは、古今東西因果律で思考しない全ての論理のことである。

当然のことながら、私たち日本人は日常の時間の中の細かなことの次第を理解することは別にして、大きなものの考へ方の領域に入りますと（思考の階層と言つても良い。その最上位の階層の論理の領域といふことです）、そこでは、自づと・自然に超越論で考へてゐるのです。この論考のこれまでの考察の次第から、江戸時代の国学者二人の超越論をそれぞれの著作から引用して御目に掛けます。さうすれば、一体私たちが、この二人の目を通じて私たちの太古・古代をどのやうに深く理解してゐたか、即ち認識してゐたかを知ることができるでせう。一人は賀茂真淵、もう一人はその弟子である本居宣長です。この二人の後に道元禅師の同じ超越論を『正法眼蔵』の「現成公案」より引用して、これも理解してもらひたい。容易に理解ができる筈です。この深い理解はそのまま神道の今中といふ時間概念の認識へと通つてゐます。これも諸所既述したところですが、何度も繰り返してお伝えしたい。

（1）賀茂真淵の超越論

賀茂真淵が書簡にて斎藤信幸宛に書いた次の条が、『出雲國造神慶賀詞（いづものくにつこ・が・かむよぎ・の・ことば）について「人代を盡（つくし）て、神代をうかゞふ」といふまでの認識に至つた次の文章です（小林秀雄著『本居宣長』519ページ）。

「先年より只今は皇朝の大道を得たりと覚ゆる事侍り、こは筆頭につくしがたし。只から人の説を忘るゝに及なし、誰かいひけん、老子は無より有に入、釋迦は有より無に入、孔子は有の有をいふと。是よくいへること也。仍（よつ）て己云老釋の説は是也、有の有は變態無窮なれば、それを定めいひしは、皆偏説になりぬ、その内四時（しいじ）を以ていはば、正春正夏正秋正冬なり。時四時の間に各十日づゝに過べからず。是をあてとして、孔子は解がごとし、我神道は不有不無、この産むの間をいふべし。何ぞといはゞ、四時の互に相うつる間の意也、不知して春になり、不知して夏になる、是天地交て、物を生じ、夫婦交て、子を生ずるが如し、此意を以て、神代を解べく覚ゆ、いかゞあらんや、御考候へかし。春夏交て、草木栄え、夏秋交て、稻の穂を含など、自然の事にて、人力人心の巧を不入、天地自然の巧なる、此自然ならで、神道を心得る物あるべからず。からの説は皆方に正色を貴、間色を悪などいふ皆尋常目に見ゆる事を立ていふに、いはゞ正色は死物のごとく、間色こそ生物なれ、此間色こそ貴けれ、此事からと違へり、御考へあれかし」（明和五年六月）〔西曆1768年〕

上記傍線を今この論考の文脈で私の言葉で解説をすると次のやうになります。

神道の道、カミの道とは、両極端を否定することである。即ち、有るを否定し無いを否定する。即ち、事物も人も、さうこれらを一言で自然と総称すれば、自然は存在するのでもなく存在しないのでもない。その自づからなるものは、その両橋の間にある



のだ。この二つの交差する其の間・隙間・凹・空間・空白・余白・繋ぎにこそ、自然即ち宇宙の命が宿つてゐるのだ。その隙間から命が生まれる。命が生まれるのは二つのものが交差したそこに生まれるのです。見よ、春夏秋冬の四時の互ひに移りあふ其の隙間に道があるのです。だから、ここに神代を理解する、理解できぬ問題を解決する鍵があるのです。私たちは如何に自然の秘密、即ち自然とは凹であり間（はざま）であり、季節季節の間だといふことに無知であることか。だから、「不知して春になり、不知して夏になる」、いつも間にか秋になり冬になるのは何故か。季節を連続してゐると思つてゐるからである。実は季節は連続してゐないと考へることが正しい道なのである。何故なら、春は春単独であるのではない。夏は夏単独であるのではない。秋も冬もそれぞれ単独であるのではない。「春夏交て、草木栄え、夏秋交て、稻の穂を含など、自然の事」が栄えるのだからである。これをよく認識せよ。変化に惑わされてはならない。これは人の力人の心の巧の問題ではない。これは宣長のいふさかしらであるが、これを真理の場所に不入（入れてはならない）。何故なら、「天地自然の巧なる」コトは、人智を超えてゐるからであり、目に見へてゐないその空間の凹・隙間・間の色、即ち間色を観ることに努めよ。何故なら、ハザマにもまた景色があるからだ。「此の自然ならで、神道を心得る物あるべからず。」これが理解できない者は、神道が理解できない者であり、これを知らねば、お前の身の廻りの物のコトもまた本当には知ることができないのだ。即ち、神道の道、カミの道とは、両極端を否定することである。両極端を排するコトである。そして、この間の景色、間色をみよ。これがコトである。即ちものとももの間のコトである。接続である、その目に見えぬ透明なる関係・コトである。それが一体何であるか、それは自づとあり、自然のコトであるが故に、それだけで尊いのだ。お前は、そのミコト・御言に名前を付けなさい。言の葉でミコトの名をつけて御言・ミコトとして呼びなさい。それが、私たちのカミの名前である。そして、それがお前のカミであり、お前はミコト持ちである。これが、何故神社・ヤシロで戴いたお札やお札の入つたお守りを、お前の家に奉り、お前がいつも肌身離さず持ち運び、これによつてお前がミコト持である心の理由、即ち私たちの深い深い心事である。

さて、ここまで意を尽くせば、お前にはよくわかるとおもふが、隣の大陸のカラの国の説は、私たちとは全く正反対に、春を見る、夏を見る、秋を見る、冬を見るといふ正しい色、即ち正色だけを見ることが、何かについて知ることだと誤解してゐるのである。「皆方（まさ）に正色を貴」び、私たち日本人の絶対的に肯定してゐる「間色を悪などいふ」のが支那人である。この人たちは「皆尋常目に見ゆる事を立（たて）ていふ」が、しかし、大陸の人たちにとっては「いはゞ正色は死物のごとく」、私たち日本人にとっては、お前にはここまで説明すればいふまでもなく「間色こそ生物なれ、此間色こそ貴けれ、此事からと違へり」といふことなのだ。どうか、よくよく自分の人生を「御考へあれかし」。お前の「心のカミを傷ましむること莫（な）かれ」（卜部神道『六根清浄太祓（ろつこんしやうじやう・おほはらひ））。

これは、これまでの私の叙述の中でも、ヤの音義によつて産まれる汎神論的存在論の世界、即ち神代の世界の中心部に存在する《ヤ》の交差の形象を論じて来て、ここまでに至つたと理解して下さるのが、一番この賀茂真淵の言葉を理解する近道であると私は思ひます。同様にまた、次の本居宣長の玉勝間の言葉もまた、宣長の言葉によつて語られてゐる私たちの超越論です。ここにカラ心はない。

賀茂真淵は隙間とか間（あいだ）といふことをいつてゐるので、空間的認識論であり、従ひ、空間的な超越論または空間的な超越論的存在論であるといふことができます。これに対して、本居宣長の超越論は、神代とこの世の等価交換をするので、時間的な認識論であり、従ひ、時間的な超越論または時間的な超越論的存在論であるといふことができます。この二つの超越論は、時間と空間ですから一つに結んでゐるムスビであるわけで、このまま二十世紀には安部公房と三島由紀夫の超越論として継承されてゐます。二十一世紀にも依然として二人の言動は影響力を持つのは、この故です。即ち、二人の言葉が、私たち日本人の論理と感情の機微に触れてゐるからです。歴史といふものは不思議なものです。さうして、伝統は歴史の時間を超えて正しく継承されてゐる。かく思へば、お互ひに一歳違ひの安部公房と三島由紀夫もまた、時代に生まれたコト・タマであるり、ミコト持ちである。二十一世紀の安部公房と三島由紀夫の登場を願ふこと切なり。

（2）本居宣長の超越論

熊沢蕃山の「三輪物語」を論じた次の文章に、本居宣長の超越論が明瞭に語られてゐる。儒学者に対抗すると超越論になるのは師の賀茂真淵と同じである。この理解はこの後に引用する『古事記伝』の中の高天原と第一層の神々についての認識と同じ認識である。ですから、宣長さんの哲学であり形而上学である学問、もの学びの道は、私たちの超越論なのであり、縄文思想の正しい説明なのです。お読み戴ければ、本居宣長の認識の正しさに納得してもらへると思ふ。

「もし人といふもの、今はなき世にて、神代にさる物ありきと記して、その人といひし物のありしやう、まづ上つかたに、首（カシラ）といふ所有て、その左り右に、耳といふもの有て、もろもろの聲をよくきゝ、おもての上つ方に、目といふ物二つありて、よろづの物の色かたちを、のこるくまなくみあきらめ」て、「かくて又胸の内に隠れて、心（ココロ）といふ物の有つる、こはあるが中にも、いとあやしき物にて、色も形もなきものから、上の件（クダリ）耳の聲をきゝ、目の物を見、口のものいひ、手足のはたらくも、皆此心のしわざにてぞ有ける、さるに此人といひし物、ある時、いたくなやみて、やうやうに重りてゆくほどに、つひにかのよろづのしわざ皆やみて、いさゝかうごくこともせずなりて止みにき、と記したらむ書を、じゆしやの見たらむには、例の信ぜずして、神代ならんからに、いづこのさるあやしき事かあるべき、すべてすべて理（り）もなく、つたなき寓言にこそはあれ、とぞいはむかし。」

そして「すべて神代の事どもも、今は世にさる事のなければこそ、あやしとは思ふなれ、今もあらましかば、あやしとはおもはましや、今世にある事も、今あればこそ、あやしとは思はね、つらつら思ひめぐらせば、世の中にあらゆる事、なに物かはあやしからざる、いひもてゆけば、あやしからぬはなきぞとよ」（玉かつま、五の巻。岩波文庫181ページ～184ページ）

私の言葉でこの引用を今の言葉でいへば、このやうになります。

一言でいふと、宣長の言つてゐることは、時間をズラして、物事を見てごらんといふことです。これは神道の今中といふ概念の、実に平凡なる（凡庸では決してない）事実の指摘です。普段当たり前にしてゐるのでほとんどの人が気付かぬだけで、事態はいつもこの認識の元に進行してゐる。賀茂真淵ならば、隙間を見よ、間の景色をみよ、間色をみよ、接続関係をみよ、繋がりと繋ぎをみよいつたところを、宣長は、神代と此世をズラしてご覧、さうしたらどちらも同じだらう、等価であらうと言つてゐる。それでは、神代が怪しく不可解で理解が不能であるならば、お前、さかしらな儒者よ、お前さんのゐる此世も不可解で理解が不能で、実は怪しいのではないのか。と、宣長は言つてゐるのです。今風にいへば、あなたの周囲は実は、あなた自身の心のあり方も含めて、混沌としてゐてカオス・chaosである。さうではないか？現実といふものをあなたは信じてゐるが、現実とは何だ。どこにも確かなものはないではないか。今の此世だとて、明日になれば神代になる。時間の長さを何千年も何万年も引き伸ばしてご覧。今の世の中も一万年後には、その世の人たちから見れば、神代になるだらう。時間といふもの、世といふもの代といふものをズラすことが、カミの世界を理解するといふことで、その鍵もヒントも今の世にあるではないか。お前は、生きてゐると思つてゐるが、それは本当か？それは一体どういふことだ？説明してくれ。そこに理屈を立てても、その理屈は一万年後のお前さんに通用すると思ふか？もし今の世が一万年後にもあるといふならば、お前は、神代の実在を信じてゐるといふことではないか。さうであれば、神代のこととは此世のことである。お前はヒトであるが、そしてカミである。といふことにはならないか、なるだらう。と、さう言つてゐる。これは、神道の中今といふ概念です。一日単位で次の三つの問を立てて連続させますので、通して読んで理解に難儀がなければ、あるひは難儀を解決すれば、宣長のいふ神代のことを、あなたは理解したことになり、あなたは古事記の神代を此世として理解したといふことです。

今日は明日の昨日
昨日は明日の今日
明日は今日の昨日

これは、実は安部公房の世界なのです。中今といふ重要な概念を理解したい方は、こ

ここで宣伝をしておきますが、安部公房の『第四間氷期』といふ傑作をお読み下さい。これはSFと呼ばれてゐますが、現実の今の話なのです。それ故に作品は古びない、今も新しい。あるひは、安部公房の作品の中によく「明日の新聞」といふ新聞が配達されますが、これは未来から配達される今日の新聞です。今日は明日の昨日ですから、この新聞は実は昨日の新聞である。本居宣長の世界です。安部公房の読者はみな本居宣長の世界を無理なく理解できます。誰も宣長と安部公房が超越論で結びついてゐると思つてゐないだけで、本当は本質的に二人の世界は同じです。ですから、安部公房は神代を書いた。これが果たして虚構・フィクションでありSFでありませうか？安部公房はこの超越論を仮説設定の文学と読んでゐることは読者ご存知の通りです。小林秀雄のいふ通り、意匠は様々であるが、物事の本質は変はらない。本居宣長を理解する最短の近道は、安部公房を読むことです。

賀茂真淵の超越論と本居宣長の超越論をまとめませう。

賀茂真淵は、春夏秋冬の変化の節目、折れ目、この目凹をみよと言つてゐる。海亀の甲羅の亀甲紋の溝凹の線刻のことです。浮世絵の版木の彫りの凹です。かうしてみると、日本に独自の浮世絵の由来の縄文思想による原理的な説明ができます。ひつくり返つた版木の世界です。これは凸凹の凹の世界。これを刷ると浮世絵になる。表の色彩豊かな凸の世界、といふわけです。有名な浮世絵師を調べると、葛飾北斎や鳥居清長なども皆人生の時間が18世紀を賀茂真淵や本居宣長と共有してゐます。これは一考にも二考にも値します。

本居宣長は、神代と此の世の時間を等価交換した。あなたの今の生きてゐる世も神代ではないかと言つた。あなたがこれを理解するキーワードが怪しといふ言葉です。あなたは怪しく、あなたの周囲の人もまたみな怪しい。しかし、これはものを考へないのと同じことだ。時間とは何か？といふ問に宣長は答へてゐる。これを古道といふのか？なんと言つても、道（ミチ）には違ひない。カミながらのミチと呼ぶなら、そのやうに、かうして、呼ぶことができる。

賀茂真淵は、季節といふ時間の単位化をして、その間に着眼せよといつた。何故なら、時間は連続量として、即ち切れ目のない川の流れのやうに私たちには意識されてゐるからです。液体の量を私たちは古今東西を問はず、器の容量で測定する。それ故に、コーヒーはa cup of coffeeであり、近頃の水ならば a bottle of waterであり、酒は一杓、一升瓶といふわけです。これは連続量を、私たちは単位化して等価交換してゐることの証明です。

本居宣長は、新古の世の時間を等価交換して、古い世も常に新しく、新しい此の世も常に古いといつた。従ひ、それ故に、ヒトはカミであり、カミはヒトであるといつ

た。宣長は真淵と同じことを述べている。何故なら、時間を単位化しなければ、等価交換はできないからです。即ち、二人は同じことを言っているのです。二人がかうであるから、これを国学の認識論であり（物事のミ様）、存在論である（物事のアリ様）を巡る超越論であるといつても一向に差し支へがないのです。超越論とは、両極端を排し否定して中道または中庸を得る道だといふ論です。従ひ、これはそのまま道徳論であり倫理学を含んであります。いつも私たちに此の中道と中庸を得ることが難しいのは、私たちが時間の中で生活をしていて、両極端の間にある領域には本当は光のスペクトラムのやうに階調があるのにいつも同じ色に、だから日常が灰色に見えるのであり、なかなか階調の識別が難しいことです。それ故に真ん中にいると思つていても、いつの間にか時勢によつて左に行つたり右に行つたりしてゐる自分の右往左往の姿に気づくことが少ない。もう一度、初心に帰り、

今日は明日の昨日
昨日は明日の今日
明日は今日の昨日

といふ文字の行間を読んでほしい。このころを、私は次の二態一様、二様一態の原理として、日本語で、この論考でもいつも伝えて来たことです。

世界は差異である
価値は等価で遍在する

これを、賀茂真淵と本居宣長にならつて、やまとことばで表せば、例へば次のやうになるでせう。他にも色々な言ひ方がある筈です。お考へ下さい。これは一例です。

世はスキマである（賀茂真淵の間色の原理）

モノ・コトのアタヒ（値）は皆スベラかに世にミチ（満）てゐる（本居宣長の等価交換の原理）

このやうに国学は哲学であり、形而上学である超越論ですが、これが、そのまま太古・古代からの私たちの生活原理であり、国体（三次元）であり国柄（二次元）の原理であるのは、後者については自づと浮世絵のことで、前者については座標をズラす位相の（賀茂真淵の）間色の三次元の座標の話で既述の通りです。経済の興隆と文化の興隆は軌を一にしてゐる。Philosophia・フィロソフィア・愛智学とは、真理の探究をする全ての学問の名前です。超越論とは、両極端を否定して此れを超越する論なので超越論といふと覚えると難しい言葉ではなくなり、あなたの日常の言葉の一つになるでせう。Sein・ザインもdasein・ダーザインもドイツの熊公八公の言葉です。

余談ながら、本居宣長のことを調べますと、17歳の時に日本全図を自分の手で描い

たことを知りましたので、その写真を示します。これは実に精緻なもので、17歳の少年がこれを描いた心は、日本の国について知りたいといふ強烈な思ひであり、そこに住む人間の生活の本当のところを知りたいといふ願ひです。この日本地図の上に、紫文要領も古事記伝も含まれてゐる。地図に書き入れた記号も線も、自分で意味を割り当てて創造したもので、これによつて日本の全体像を描いてゐます。この地図は壁一面に掛けられるほどの大きなもので、決して小手先でちまちまと小さな紙に描いたものではありません（縦約122cm×幅約195cm）。少年宣長は全身を一杯に使つて日本全図を描いた。自分の人生の全てを賭けたといふことです。賀茂真淵にも同じことがあつたに違ひない。



次に道元禅師の超越論が、国学の創始者二人の論と全く同じだといふことを知つてもらひたいので、『正法眼蔵』のうち「現成公案」より引用して、「あなたの超越論」の理解に供したい。座標をズラすといふ私たちの神代と此の世の話は、本居宣長の等価交換の世界、即ち、モノ・コトのアタヒ（値）は皆スベラかに世にミチ（満）てゐる世界なのですが、しかし、ヨーロッパの哲学者は到頭日本列島の超越論に辿り着くことができなかつた。レヴィ・ストロースとハイデッガーは例外中の例外です。この二人を大切にしたら、欧米の頹廢を極めてゐる今の姿も、なんとかなるかも知れませんが、それは私たちの世界では全くありません。キリスト教の上に成り立ち、これを否定することの相克である闘争と戦争の異質の世界です。但し、超越論の論理を除いては。超越論は、安部公房の言葉を借用すれば「他者への通路」です。

Myth・ミュスまたはmythus・ミュトスを、神話と訳したのは誤訳でした。神代または神世と和訳すべきでした。それならGodは如何に。お得意のカタカナを使つて、我が身を守り、意味が不明であればゴツドでよかつたのではないでせうか。明治帝国憲法は漢字の間（スキマ）は皆カタカナで書かれてゐるのは何故か？Budhaは仏陀またはブツダなのであれば、Godもまたゴツドといふことです。どんな漢字を充てるべきかは、古代の場合と同じで、まあ、今も変はらずに若い人たちも含めて万葉仮名に変形させズラして何事にも勝手に漢字を充ててゐるわけですから（例：俗称キラキラ・ネーム：昊空（そら）心愛（ここあ）姫奈（びいな）七音（どれみ）；<https://ja.wikipedia.org/wiki/キラキラネーム>）、あなたのご自由に。これらの名前を見ると、笑ふ以外にはない。問ふ、果たして万葉仮名はここまで進化したのかここまで退化したのか？（太安万侶は草葉の陰で涙してゐるのであらうか？笑つてゐるのであらうか？拍手喝采してゐるのであらうか？）禅の公案と同じで、あなたは第三の道に答を求めなければならない。禅も超越論です。『無門関』の全ての問も同じ問を問ふてゐる。禅が何故日本の国で受け入れられたかの、これが大きな理由だと私は考へてゐます。

といふことで、次は、

J 道元禅師の超越論

(以下次号)

Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界シリーズ」

(12)

扇

岩田英哉

あふぐなら いぶきどのかみ ゐたちなむ たれもかれもが みなかみがゆゑ



編集後記

●巻頭詩（17）君がため…：光孝天皇：呪いの箱男の漫画後に光孝天皇の御製では、光孝天皇もまたびっくり仰天なされてゐるのではないでせうか。しかしながら、皆同じ平面の上に並べてしまふのが安部公房の世界。メタ・フィクションの世界なるが故に、光孝天皇もまた反対はなさらぬことを信ずる。

●周辺飛行（42）：3。『周辺飛行』について（21）：周辺飛行39—公然の秘密：安部公房の独自の用語も周辺飛行を読み進めるうちに自然に寄り集まって、一つの連鎖をなし初めてゐます。これで、相当に安部公房の世界は知られることになります。一言でいへば、公然の秘密の世界です。●二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（12）：安部公房の塔と倉橋由美子の塔：待て次号：最初の石を置きましたが、果たして倉橋由美子は塔を建てたか。ここには辛辣なるこの女性の塔が立ってゐることと思ひながら、聖少女を読み進めることにします。乞ご期待。●糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号●ネット・メディア論（16）：まて次号●Mole Hole Letter（56）：フォークソング・国民の歌：キンタマを抜かれた男たち/恋の奴隷：もはや救いのないナマハゲ総理や赤パンダ（どうやら与党の漢字長らしい）を国会議事堂に入れて、国民は如何に生きるべきか。国会議事堂の前で斉唱しませう。●縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（15）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（4）：G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さ（90万年）は何を意味するか（2）/H 古代の天皇の寿命の長さは何を意味するのか/1 国学の超越論：賀茂真淵と本居宣長の超越論：これで、相当に太古から古代、それに国学を通り安部公房まで、といふことは今の二十一世紀にまで生きてゐる、何と呼ぼうが、古学、神道、かみながらの道、国学などなど、いずれも同じ道なりけり。ミチといふ言葉は、私たちには誠に尊い道なりけり。といふ発見の章でした。●Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境シリーズ（12）：扇：まて次号●では、また、次号、

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。